

第3次玉村町障害者福祉計画
第2期玉村町障害福祉計画

平成21年3月

玉 村 町

はじめに

本町では、障がいのある人々や高齢者、そしてすべての人々が地域のなかで共に生きる喜びを持ち、お互いに理解を深め、協力し、助けあえる心豊かな社会・町づくりをめざし平成15年に「第2次玉村町障害者福祉計画」を策定し、障がい者福祉の推進を図ってまいりました。

しかしながら、計画期間の終了や障がい者を取り巻く環境の大きな変化等により障がい者施策の見直しが必要とされています。また、平成18年4月障害者自立支援法が施行され、知的・身体・精神障がい者（児）に対する福祉施策が一元化され、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう町が実施主体となり必要な障害福祉サービスに係る給付その他の支援を行なっています。

前計画を継承しながらこうした諸情勢の変化に対応し、障がい者の自立と社会参加をめざし、総合的かつ計画的な障害者施策を推進していくため、「第3次玉村町障害者福祉計画」及び「第2期障害福祉計画」を策定いたしました。

この計画は、基本的な施策の方向性を定めるものであり、本計画を着実に実施していくためには、障がい者だけでなく障がいのない人、さまざまな関係機関や関係諸団体のご協力はもとより、行政と町民一人ひとりが一緒になって施策の推進に取り組んでいきたいと考えています。

今後も、町民の皆様をはじめ、障害者団体や関係機関の方々になお一層のご理解とご協力をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

最後に、この計画の策定にあたりまして、貴重なご意見、ご指導を賜りました計画策定懇談会委員の皆様を始め、障害関係団体、アンケート調査などを通じて貴重なご意見をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

玉村町長 貫井 孝道

目 次

第1章 計画の基本事項

1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の期間	2
3. 他の計画との関係	2
4. 計画の策定体制	2

第2章 障がい者（児）の現状

1. 障がい別障がい者数	3
1. 身体障がい者（児）	3
2. 知的障がい者（児）	5
3. 精神障がい者（児）	6
2. 障がい者（児）人口の推移	7
1. 身体障がい者（児）	7
2. 知的障がい者（児）	8
3. 精神障がい者（児）	9
3. 障がい者（児）福祉サービスの現状	11
1. 訪問系サービス	11
2. 日中活動系サービス	12
3. 居住系サービス	14
4. 在宅福祉サービス	15
5. 相談事業	19
6. 旧法施設等入所通所状況	19

第3章 障がい者（児）福祉の推進

1. 基本方針	21
2. 施策の体系	22
3. 行動計画	24

1. 理解と交流	24
1) 相互理解の促進	24
2) 推進基盤の整備	26
2. 保健・医療・教育の充実	27
1) 障がいの発生予防・早期発見	27
2) 医療体制の充実	28
3) 教育の充実	30
3. 福祉サービスの充実	31
1) 生活の安定	31
2) 訪問系サービスの充実	32
3) 日中活動系サービスの充実	33
4) 居住系サービスの充実	35
5) 在宅施設サービスの充実	36
6) 相談窓口の設置	38
7) 情報提供・PR	39
4. 社会参加の促進	40
1) 雇用・就労の促進	40
2) スポーツ・レクリエーション・文化活動の促進	41
5. 社会環境の整備	42
1) 日常生活環境の整備	42
2) 交通対策の推進	43
3) 防災体制の確立	44

第4章 数値目標及びサービス見込量

1. 地域生活への移行に関する数値目標	45
1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行	45
2) 入院中の精神障がい者の地域生活への移行	45
2. 福祉施設から一般就労への移行に関する数値目標	46
3. サービス必要量の見込み	47
4. サービス見込量確保のための方策	49
1) 訪問系サービス	49
2) 日中活動系サービス	49

3) 居住系サービス	49
4) 相談支援事業	50
5. 地域生活支援事業	50

参考資料

・ 障害者福祉計画策定の経緯	51
・ 計画策定懇談会の設置規定、委員名簿	52
・ アンケート調査の概要	55
・ アンケート調査結果	56

第1章 計画の基本事項

1. 計画策定の趣旨

近年、障がいのある人に対する福祉を取り巻く環境が大きく変化しています。国においては、「障害者プラン・ノーマライゼーション7か年戦略」それに続く「障害者基本計画」及び「重点施策実施5か年計画」を策定し、この間さまざまな施策を展開してきました。

主な施策としては、平成15年度に身体障がい者、知的障がい者及び障がい児を対象とした支援費制度が導入されました。

県では、平成21年1月に「群馬県障害者計画2009～バリアフリーぐんま障害者プラン4」及び「第2期群馬県障害福祉計画」を策定して障がい者施策を推進します。

これらは、障がいのある人の自立と社会参加を基本とした「障害者基本計画」に、基づく地域福祉の実現、すなわち障がいのある人が、身近なところで必要なサービスを受け、安心して暮らせる地域づくりを目指すものです。

本町では、平成6年度に12年度までの7か年を計画期間とした「玉村町障害者福祉計画」・平成15年度から平成19年度までの5か年を計画期間とした「第2次玉村町障害者福祉計画」を策定し、諸施策を実施してきました。

こうした中、平成18年4月1日に施行された障害者自立支援法は、これまでの施策・理念を踏まえ、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者に対して別々に行なわれていたサービスを一元化し、市町村が実施主体となり、障がいのある人の地域生活への移行や就労支援等の課題に対応したサービスの整備を目指したものであり、これまでの障がい者福祉を大きく変革するものです。

このような状況に応じて、計画期間の終了した「第2次玉村町障害者福祉計画」を継承しつつ「第3次玉村町障害者福祉計画」と障がい福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制の確保に関する「第2期玉村町障害福祉計画」について併せて策定し、障がい者が住み慣れた地域で、障がいのない人と同じように暮らし、社会に参加することができる町づくりを目指して、今後の障がい者福祉の一層の推進を図ることとします。

2. 計画の期間

第3次障害者福祉計画は、平成21年度から平成25年度までの5年間とします。

第2期障害福祉計画の記述部分については、平成21年度から平成23年度までの3年間とします。

3. 他の計画との関係

本計画は、平成13年4月に策定された「第4次玉村町総合計画」を基本とし、平成21年3月に策定された「第4期高齢者保健福祉計画」との整合性を図りながら、策定するものです。

4. 計画の策定体制

計画策定にあたり、各民間関係者の意見や提言を反映させるため、「計画策定懇談会」を設置し、計画策定に係る意見交換や内容検討を行いました。

第2章 障がい者（児）の現状

1. 障がい別障がい者数

平成20年3月31日現在、玉村町で身体障害者手帳を所持している者は894人、療育手帳所持者は155人、精神障がい者数（自立支援医療費受給者数）は193人、合計1,242人で人口の3.3%です。

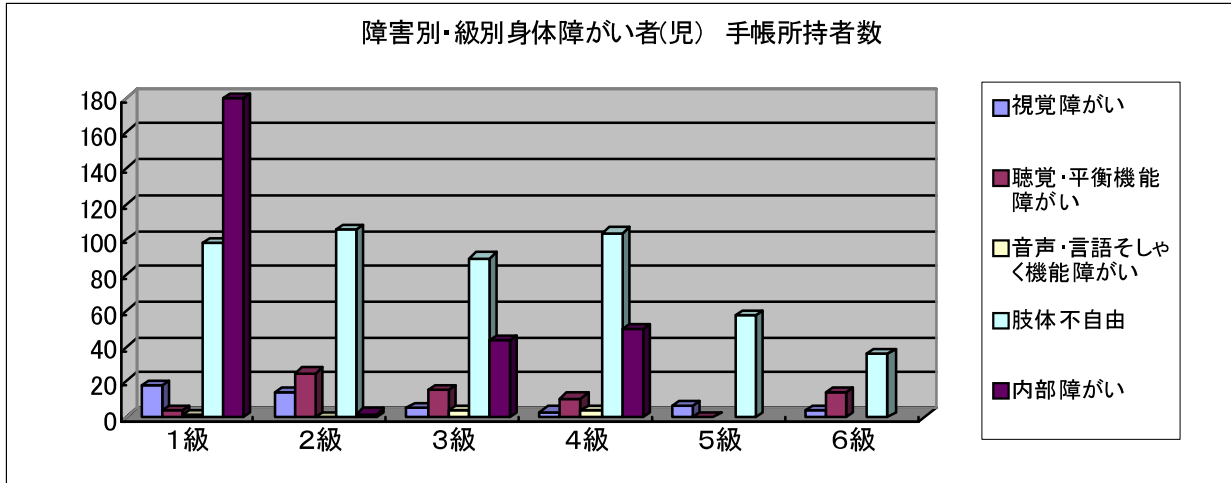
1. 身体障がい者（児）

身体障がい者（児）は894人で、障がい別に見ると肢体不自由が491人（54.9%）と最も多く、次いで内部障がい275人（30.8%）、聴覚・平衡機能障がい69人（7.7%）、視覚障がい50人（5.6%）、音声・言語そしゃく機能障がい9人（1.0%）となっています。

また、級別に見ると内部障がいの1級が最も多く、20.1%を占め、さらに、1級、2級の重度障がい者は448人と全体の50.1%を占めています。

障がい別・級別身体障がい者（児） 手帳所持者数 （平成20年3月31日現在）

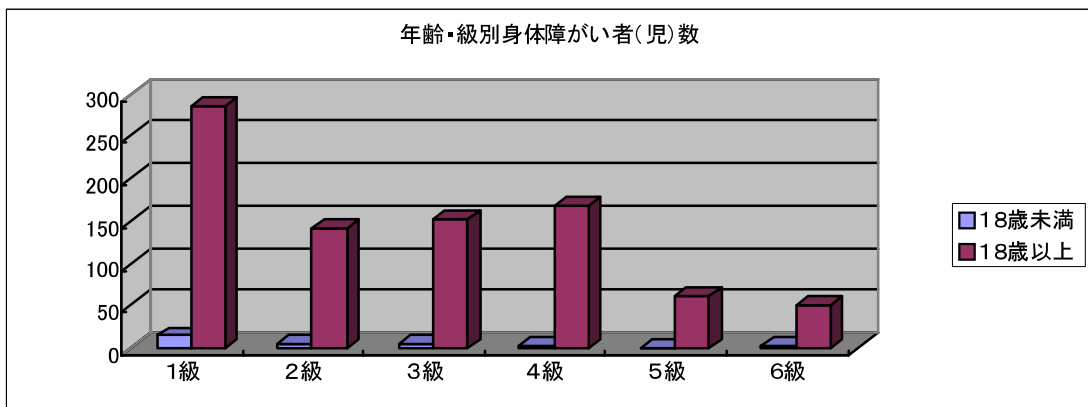
障がいの種類 \ 級 別	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合計
視覚障がい	18	14	5	3	6	4	50
聴覚・平衡機能障がい	4	25	15	11	0	14	69
音声・言語そしゃく機能障がい	1	0	4	4			9
肢体不自由	98	106	90	104	57	36	491
内部障がい	180	2	43	50			275
合 計	301	147	157	172	63	54	894



身体障がい者（児）を年齢別にみると、18歳以上の障がいの重い1級が286人と最も多く、31.9%を占めています。

年齢・級別身体障がい者（児）数（平成20年3月31日現在）

年齢 \ 級	級						合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
18歳未満	15	5	5	3	1	3	32
18歳以上	286	142	152	169	62	51	862
計	301	147	157	172	63	54	894

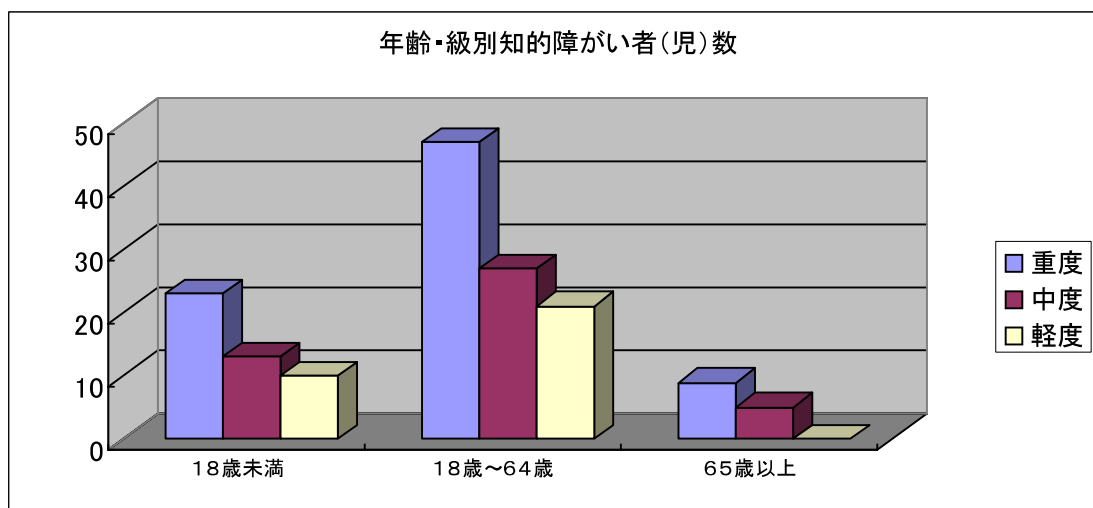


2. 知的障がい者（児）

療育手帳を所持している知的障がい者（児）については平成20年3月31日現在155人で、級別でみると重度が79人（51%）で最も多くなっています。

年齢・級別知的障がい者（児）数（平成20年3月31日現在）

年齢 \ 級	級			計
	重度	中度	軽度	
18歳未満	23	13	10	46
18歳～64歳	47	27	21	95
65歳以上	9	5	0	14
合計	79	45	31	155



3. 精神障がい者（児）

平成20年10月に群馬県が県内精神科病院入院患者4,865人を対象に調査を行い、その結果「今後、状態の改善が見込まれるので、居住先や支援が整えば概ね1年以内に退院可能」とされた人が、842人という結果となった。

4,865人中54人（6.4%）が玉村町民であった。54人中退院可能な者は12名という結果となった。

精神科入院患者

群馬県内	県内退院 可能患者	玉村町	玉村町退院 可能患者
4,965人	842人	54人	12人

自立支援医療制度を利用している人は平成20年3月31日現在で193人、精神障害者手帳を所持している人は79人となっています。

精神障害者手帳

1級	2級	3級	合計
38	29	12	79

2. 障がい者（児）人口の推移

1. 身体障がい者（児）

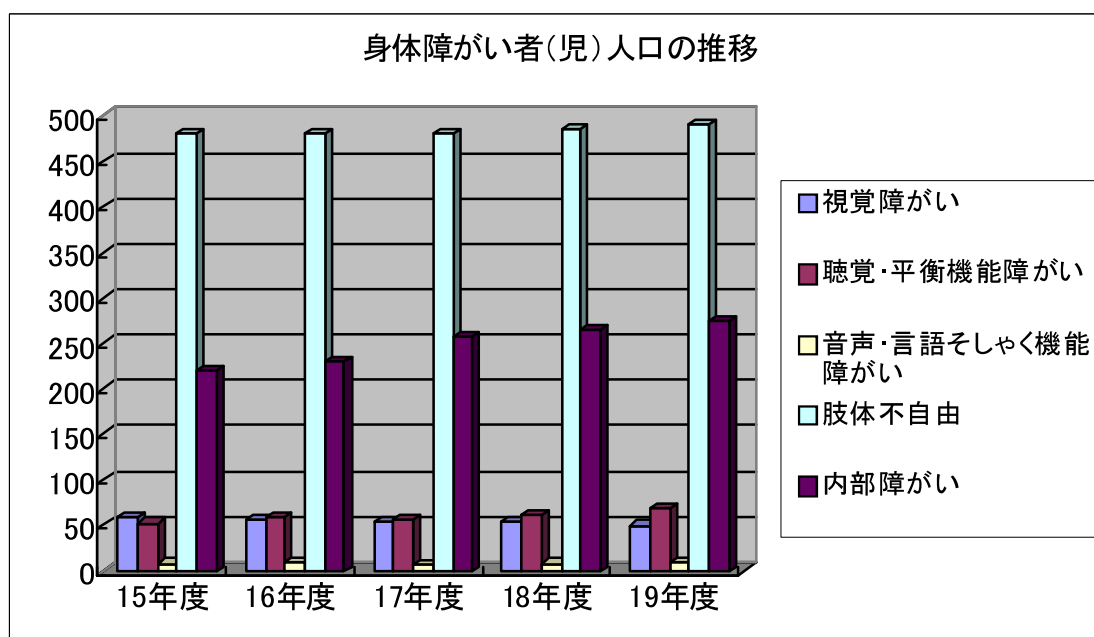
身体障がい者（児）人口の推移は、平成15年度から平成19年度までの5年間で74人、9%の増加となっています。

障がいの種類別に見ると、視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい、音声・言語そしゃく機能障がいは5年間でほぼ横ばいの状態であり、肢体不自由、内部障がいは年々増加の傾向にあります。

身体障がい者（児）人口の推移（種類別）

（単位：人）

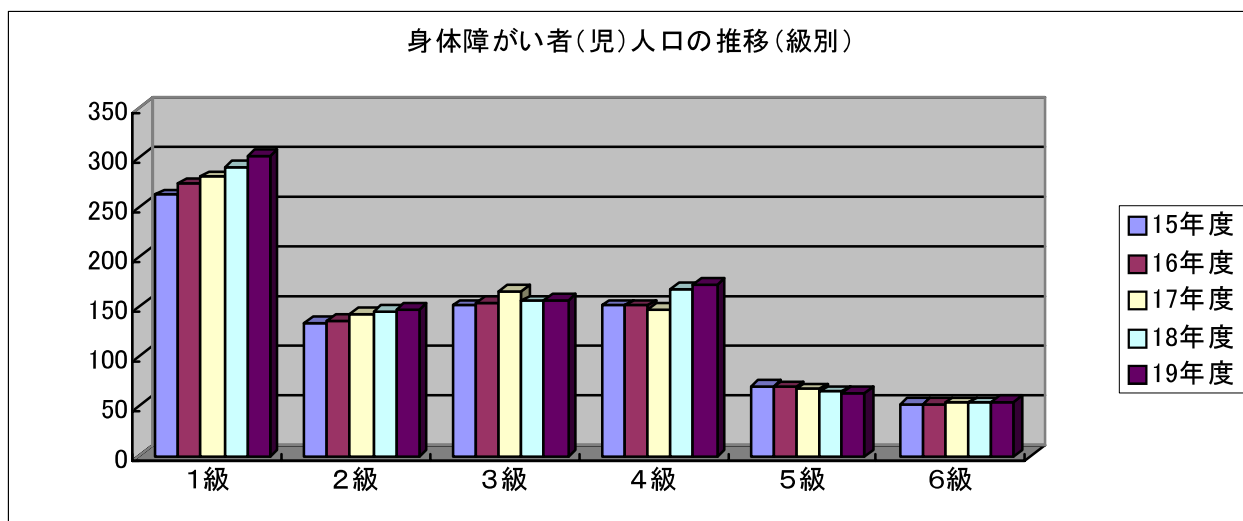
障がいの種類	15	16	17	18	19
視覚障がい	58	57	54	54	50
聴覚・平衡機能障がい	53	59	57	62	69
音声・言語そしゃく機能障がい	8	9	7	8	9
肢体不自由	480	480	480	485	491
内部障がい	221	230	257	265	275
合計	820	835	855	874	894



身体障がい者（児）の人口の推移を級別に見ると、1級が平成15年度から平成19年度の5年間で39人と最も増加しています。

身体障がい者（児）人口の推移（級別）

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
1級	262	273	280	290	301
2級	134	136	143	145	147
3級	151	154	165	155	157
4級	151	151	147	167	172
5級	70	69	67	64	63
6級	52	52	53	53	54
合計	820	835	855	874	894

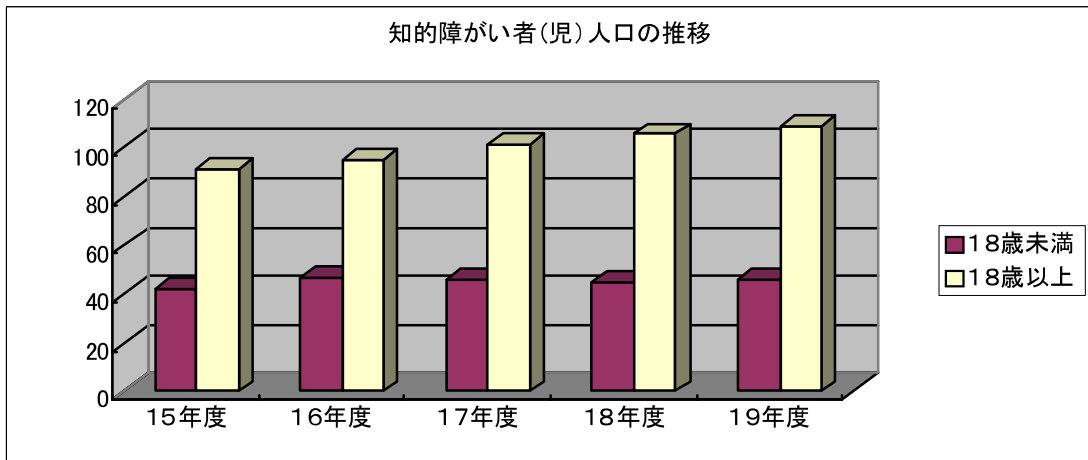


2. 知的障がい者（児）

療育手帳を所持している知的障がい者（児）の人口の推移は、平成15年度から平成19年度までの5年間で、全体で21人の増加となっています。

知的障がい者（児）人口の推移（級別）

年度 区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
重度	70	72	75	77	79
中度	41	42	43	44	45
軽度	23	28	30	30	31
計	134	142	148	151	155



3. 精神障がい者

玉村町における自立支援医療受給者や精神障害者保健福祉手帳の申請状況を見ますと、年々増加してきています。

特に18年度の障害者自立支援法の施行により、18年度は大幅な増加がありました。

自立支援医療費受給者

区 分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
自立支援医療 受給者	74	73	91	182	193

精神障害者保健福祉手帳所持者数

区 分	16年度	17年度	18年度	19年度
1級	26人	27人	32人	38人
2級	13人	13人	20人	29人
3級	9人	13人	14人	12人
合計	48人	53人	66人	79人

3. 障がい者（児）福祉サービスの現状

1) 訪問系サービス

(1) ホームヘルプサービス

自宅で入浴や排泄、食事の介護など、自宅での生活全般にわたる介護サービスを行います。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	9人	4人	14人	27人
平成19年度	10人	5人	14人	29人

(2) 重度訪問介護

重度の肢体不自由があり、常に介護が必要な人に、自宅での介護から外出時の移動までを総合的に行います。

実利用者数

	身体
平成18年度	1人
平成19年度	2人

(3) 行動援護

知的障がいまたは精神障がいにより、行動が困難で常に介護の必要な人に、外出時の移動の支援や行動の際に生じる危険回避のための援護などを行います。

利用実績なし

(4) 重度障害者等包括支援

常に介護を必要とする人のなかでも介護の必要性がとても

高い人に、居宅介護などの障がい福祉サービスを包括的に提供します。

利用実績なし

(5) 短期入所事業

自宅で介護を行う人が病気の場合などに、短期の入所による入浴、排泄、食事の介護などを行います。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	0人	3人	0人	3人
平成19年度	0人	4人	0人	4人

2) 日中活動系サービス

(1) 生活介護

常に介護を必要とする人に、おもに日中に障がい者支援施設などで行われる入浴、排泄、食事の介護や、創作的活動、生産活動の機会の提供などを行います。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	0人	1人	0人	1人
平成19年度	1人	1人	0人	2人

(2) 療養介護

病院などの施設で、おもに日中に機能訓練や療養上の管理、看護、介護、日常生活上の援助などを行います。

利用実績なし

(3) 自立訓練

自立した日常生活や社会生活ができるよう、身体機能や生活能力向上のための訓練を、一定期間の支援計画に基づき行います。

利用実績なし

(4) 就労移行支援

就労を希望する人に、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練や職場実習などを、一定期間の支援計画に基づき行います。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	0人	0人	1人	1人
平成19年度	0人	0人	1人	1人

(5) 就労継続支援

一般企業等で雇用されることが困難な人に、働く場の提供や、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行います。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	0人	1人	1人	2人
平成19年度	0人	1人	2人	3人

(6) 児童デイサービス

障がい児に対して、施設に通っての日常生活における基本的な動作の指導や集団生活への適応訓練などを行います。

実利用者数

	身体	知的	合計
平成18年度	0人	3人	3人
平成19年度	0人	2人	2人

3) 居住系サービス

(1) 共同生活援助（グループホーム）

日中に就労または就労継続支援等のサービスを利用している知的障がい者または精神障がい者に対して、地域の共同生活の場において、相談や日常生活上の援助を行います。

実利用者数

	知的	精神	合計
平成18年度	1人	3人	4人
平成19年度	1人	4人	5人

(2) 共同生活介護（ケアホーム）

日中に就労または就労継続支援等のサービスを利用している知的障がい者または精神障がい者に対して、地域の共同生活の場において、入浴や排泄、食事の介護などを行います。

実利用者数

	知的	精神	合計
平成18年度	1人	0人	1人
平成19年度	1人	1人	2人

(3) 施設入所支援

介護が必要な人や通所が困難な人で、自立訓練または就労移行支援のサービスを利用している人に対して、居住の場を提供し、夜間における日常生活上の支援を行います。

実利用者数

	身体	知的	合計
平成18年度	0人	1人	1人
平成19年度	0人	1人	1人

4) 在宅福祉サービス

(1) 補装具の交付及び修理事業

身体障がい者の障がいのある部分を補って、日常生活や社会生活を快適に営むため、補装具の交付、修理にかかる費用を補助し、身体障がい者の福祉の増進を図ることを目的としています。

利用状況

区分 補装具名	交付	
	18年度	19年度
義肢	3	4
装具	4	3
座位保持装置	3	2
盲人安全つえ		
義眼		
眼鏡	1	1
点字器※		
補聴器	8	8
人工喉頭※	1	
車いす	8	7
電動車いす	1	

区分 補装具名	交付	
	18年度	19年度
座位保持いす		
起立保持具		
歩行器		
頭部保護帽※		
頭部保持具		
排便補助具		
収尿器※		
ストマ用装具※	180	
歩行補助杖※		
重度障害者意思伝達装置※		
計	209	25

(2) 日常生活用具給付・貸与事業

在宅重度の障がい者に、補装具以外の機器で、自立した日常生活を支援する用具の給付やレンタルを行います。

利用状況

区分 年度	種類別給付件数 (件)	
平成18年度	特殊寝台	1
	特殊マット	2
	移動用リフト	2
	入浴補助用具	2
	歩行支援用具	1
	聴覚障害者用屋内信号装置	1
	ネブライザー	1
	電気式たん吸引器	2
	視覚障害者用活字文書読上げ装置	1
	聴覚障害者用情報受診装置	1
	ストーマ装具※	90
	紙おむつ※	19
	居宅生活動作補助用具	2
合計	125	
平成19年度	特殊寝台	1
	移動用リフト	1
	入浴補助用具	2
	便器	1
	頭部保護帽※	1
	ネブライザー	1
	電気式たん吸引器	5
	点字ディスプレイ	1
	盲人用時計	1
	人工喉頭※	1

平成19年度	ストーマ装具※	308
	紙おむつ※	34
	居宅生活動作補助用具	2
合計		359

※障害者自立支援法の施行に伴い、平成18年10月より、日常生活用具の重度障害者意思伝達装置が補装具に、補装具のストーマ装具・歩行補助杖・頭部保護帽・人工喉頭・収尿器・点字器・紙おむつが日常生活用具に組み替えられました。

(3) 重度身体障害者（児）住宅改造費補助事業

在宅の1、2級の下肢・体幹機能障がい者（児）や下肢及び体幹の重複障がい者で1～2級の視覚障がい者（児）の手帳保持者で、所得税額が一定以下の世帯に属する人に対して、浴室、便所、玄関、台所等生活に適する改造をすることにより日常生活の利便を図るため改造費の一部を補助しています。

利用状況

年度 \ 区分	利用者数	補助金額
平成18年度	1人	50万円
平成19年度	2人	100万円

(4) 重度心身障害者（児）入浴サービス事業

家庭での入浴が困難な重度心身障がい者（児）に対して、移動入浴車による入浴サービスを行っています。

利用状況

年度 \ 区分	実利用者	延べ回数
平成18年度	5人	233回
平成19年度	5人	339回

(5) 日中一時支援事業

在宅の知的障がい者（児）、身体障がい児及び1、2級の重度身体障がい者（18歳～65歳）を対象に介護者が病気やその他の用事等で介護ができないときに、一時的に登録介護者やサービスステーションが代わって介護するものです。

実利用者数

	登録介護者	サービスステーション	心身障がい児 集団活動訓練
平成18年度	2人	25人	21人
平成19年度	3人	23人	17人

(6) 福祉タクシー料金給付事業

身体障害者手帳1級の人で、自動車税・軽自動車税の減免を受けていない者（児）に対して、福祉タクシー料金給付利用券を年間24枚を限度として交付し、生活の援助、外出の便宜を図るものです。

利用状況

区分 年度	実利用者	延べ回数
平成18年度	6人	35回
平成19年度	5人	41回

(7) 移動支援事業

余暇活動などの外出時の移動を支援し、自立生活や社会参加を促します。

実利用者数

	身体	知的	精神	合計
平成18年度	3人	2人	2人	7人
平成19年度	6人	4人	5人	15人

5) 相談事業

(1) 精神保健相談

精神保健相談では、毎月1回保健センターにおいて精神科の専門の先生が相談や家庭訪問に依っており、相談件数は横ばいです。ここ数年の相談内容は、高齢化に伴い認知症に関する相談が増えてきています。

精神保健相談の推移

年度 区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
精神保健相談	23件	13件	22件	17件	17件

6) 旧法施設等入所・通所状況

(1) 身体障がい者の状況

平成20年3月31日現在

施設の種類	在所者数
身体障害者入所更生施設	0人
身体障害者入所療護施設	4人
身体障害者入所授産施設	1人
身体障害者通所授産施設	1人

(2) 知的障がい者の状況

平成20年3月31日現在

施設の種類	在所有者数
知的障害者入所更生施設	25人
知的障害者通所更生施設	7人
知的障害者通所授産施設	3人
知的障害者通勤寮	2人
知的障害者福祉ホーム	3人

第3章 障がい者（児）福祉の推進

1. 基本方針

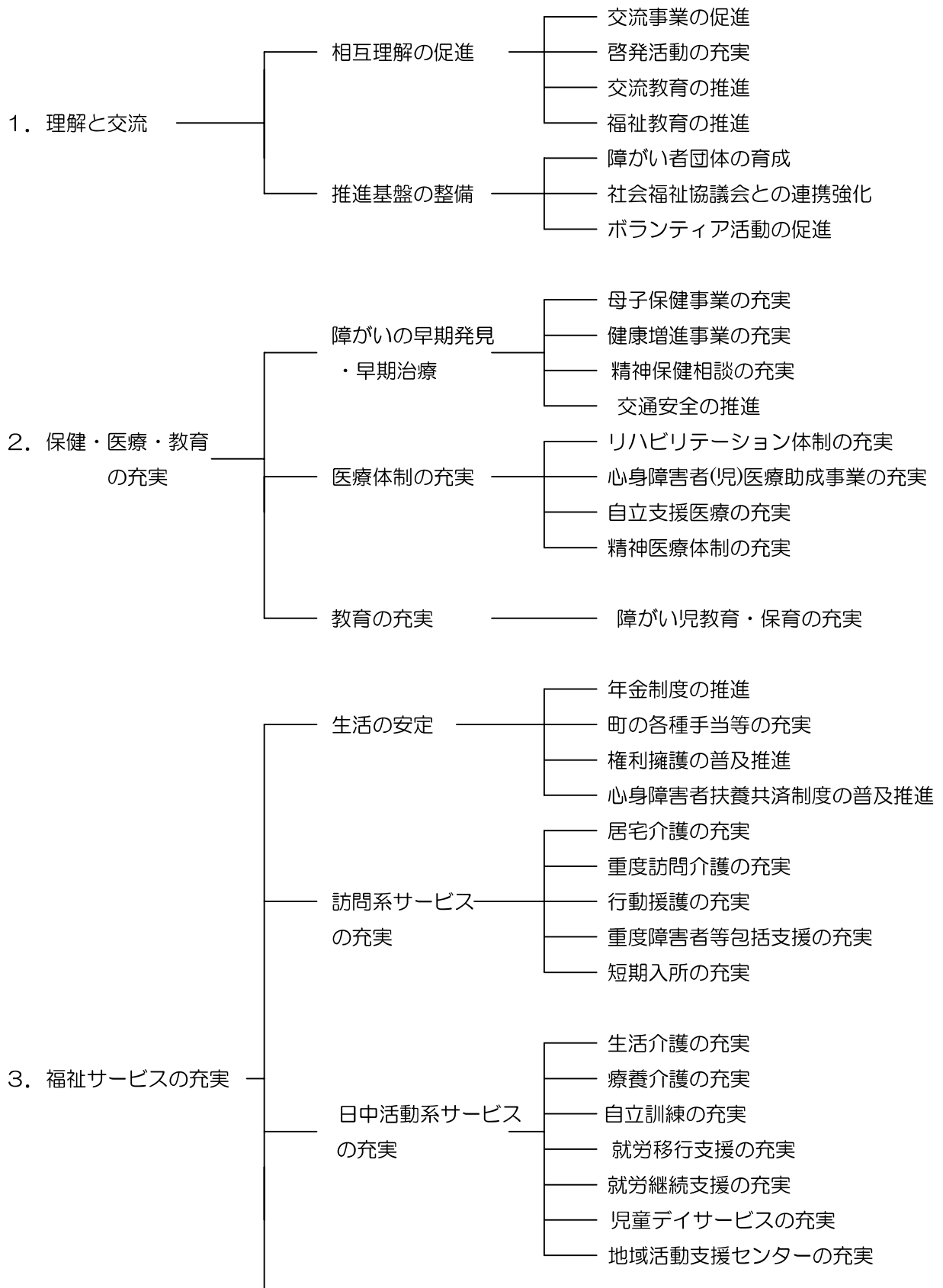
障がいを引き起こす原因となる傷病や事故などは、誰もが直面する可能性があり、決して特定の人の問題ではありません。

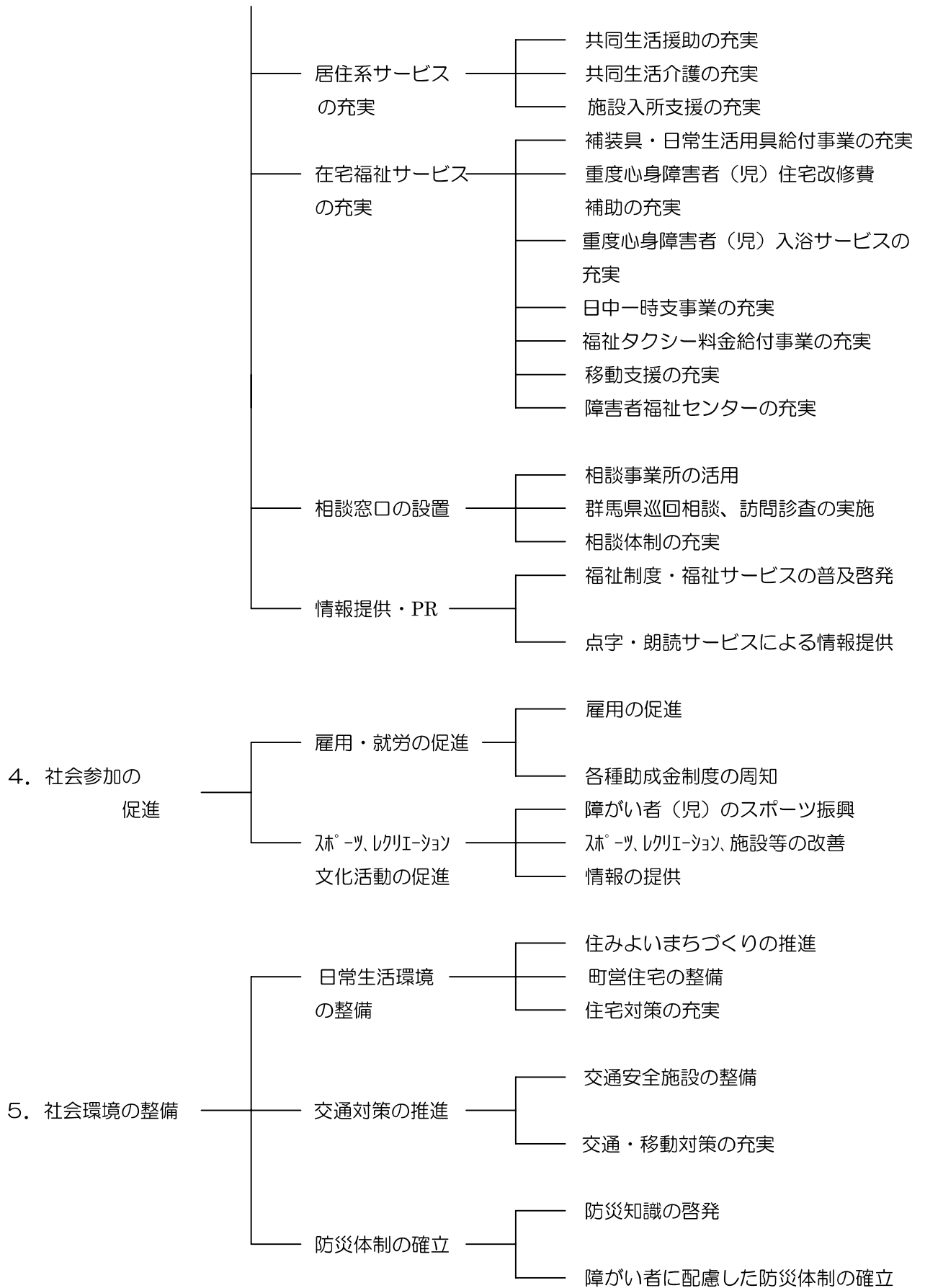
疾病構造の慢性化や高齢化の進展により、何らかの障がいを持って生きていかなければならない人が社会の中で大きな割合を占めるようになってきています。そして、障がいの重度化、重複化及び障がい者の高齢化が、今後益々進展することが予想されます。

そこで玉村町が障がいのある人が住みよい町と思えるよう、ノーマライゼーションの理念に基づき、物資的障壁や意識上の障壁など様々な障壁の除去を図り、障がい者（児）も自分自身の心の障壁を克服し、誰もが地域社会の中で、人間らしく暮らせ、人間として権利も守られ、人間としての尊厳が損なわれることなく共に生きる喜びを持つことができる社会の構造を目指すという前計画の基本方針を引き継ぎながら、さらに障がい者やその家族の地域における生活を支援し、障がい者の自立と社会参加を実現するため町の基本方針を次のように設定します。

1. 理解・交流を促進させ、様々なバリアフリー化を図ります。
2. 保健・医療・教育の充実に努め、障がいの発生予防・障がいの軽減・個々の学力や生活能力の向上を図ります。
3. 地域社会の中で自立し、安心して生活が送れるよう福祉サービスの拡充を図ります。
4. 雇用促進やスポーツ等の振興を図り、自立・社会参加の促進を図ります。
5. 共に生きる社会の実現のため、住みよい社会環境づくりを推進します。

2. 施策の体系





3. 行 動 計 画

1. 理解と交流

1) 相互理解の促進

障がいがある人もない人も、すべての人が住みよい社会の推進のため、障がい及び障がい者（児）について正しい認識と理解を深め、偏見などの心の壁をなくすことが必要です。

町民に障がい者（児）に対する正しい理解と協力を呼びかけ、障がい者（児）との交流及び相互理解を促進します。

(1) 交流事業の促進

障がいがある人とない人との交流や相互理解を深めるため、町や地域または各種団体が主催する行事に、福祉的な視点を取り入れ、障がい者（児）が参加しやすいように配慮した全町民参加型の行事にし、積極的な参加を促進します。

(2) 啓発活動の充実

町の広報やホームページなどに、障がいや障がい者の関連記事を掲載し、障がいについて関心をもってもらうとともに、理解を深めてもらうよう努めます。

また、12月の「障害者週間」や毎年9月の「障害者雇用支援月間」、10月の「精神保健福祉普及運動週間」などを通じて、啓発活動を積極的に推進します。特に、精神障がい者に対する誤解や偏見が回復途上の精神障がい者が地域で自立、就労する際の大きな阻害要因となっていることから、精神障害者保健福祉手帳交付をはじめとする各種施策の周知や正しい知識の啓発活動を進めます。

(3) 交流教育の推進

障がい児生徒と障がいのない児童生徒や地域の人たちが、学校教育の中で交流することを通じて、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことができる基盤をつくれるような交流教育を推進します。

(4) 福祉教育の推進

学校における福祉教育については、すべての人を個人として尊重し、思いやりの心をもって助け合う態度を育て、共に生きる人間の育成を目指して行われています。そのために、町内全ての学校が福祉体験活動やボランティア活動に取り組めるような環境等の整備、また、それらの活動を通して障がいをもった人と交流できるような機会を設けられるように努力します。

さらに障がいがある人もない人も共に一人の人間として尊重し理解しあえる社会、バリアフリーの社会の形成を目指し、町民一人ひとりが福祉の意識を高め行動できるような地域・職場における福祉教育を推進します。

2) 推進基盤の整備

障がい者（児）だけでなく、すべての町民が住みよい安全な社会づくりを進めて行くには、障がい者（児）に対する各種施策を実施するだけでなく、町民の障がい及び障がい者（児）に対する理解や協力が不可欠です。

障がい者（児）の社会参加の実現のため、ノーマライゼーションの理念に基づき、一層の推進を図ります。

(1) 障がい者団体の育成

町身体障害者連合会や心身障害者父母の会「野バラの会」等の団体を育成するとともに、その自主活動を支援し町民の理解促進に努めます。

(2) 社会福祉協議会との連携強化

町福祉活動の中核である社会福祉協議会との連携をより一層強固にし、福祉サービスの向上を図ります。

(3) ボランティア活動の促進

町民の障がい者（児）に対する理解を深めるとともに、ボランティア活動の環境づくりを行い、意識の高揚を図り、積極的に参加できるよう支援します。

2. 保健・医療・教育の充実

1) 障がいの早期発見・早期治療

障がいの早期発見、早期治療は障がいの軽減に効果的であるため、関係機関と連携し、母子・成人・老人等の各種保健事業を充実させ、健康管理や保健指導を適切に行います。

(1) 母子保健事業の充実

妊娠中から幼児に至る各種健康診査や相談、保健指導、訪問相談等を実施し、乳幼児の健全な発育と育児支援を行います。

さらに、幼児発達相談の充実や児童相談所・子育て支援センターとの連携を図り、障がいや虐待の防止、早期発見・早期治療に努めます。

(2) 健康増進事業の充実

動脈硬化、高血圧、糖尿病などのメタボリックシンドロームを予防するため、特定健診や健康相談、健康教育、保健指導等の充実を図ります。また筋力向上トレーニングなどの介護予防にも取り組み、将来寝たきりや認知症などの発生を予防し、健康寿命の延伸に努めます。

(3) 精神保健相談の充実

精神的な悩みやストレスについて、だれでも気軽に相談できるように保健センターにおいて精神保健相談の充実を図り、県立こころの健康センターや医療機関との連携を密にし、早期発見・早期治療に努めます。

(4) 交通安全の推進

疾病だけでなく、交通事故で障がいを受けることも多く、関係機関との連携を図り、保育所・幼稚園・学校・職場・地域等での交通安全教室を開催して、交通安全を推進します。

2) 医療体制の充実

障がい者（児）の障がいに応じたリハビリテーションの充実は、障がいの軽減や自立の促進をするために重要なものであり、体制の充実を図る必要があります。

また、自立支援医療等の適正な医療を確保し、保健や医療、福祉などによる連携を図り、総合的な対策を推進します。

(1) リハビリテーション体制の充実

障がい者の共生社会の実現のため、リハビリテーションに対する意識の啓発を図るとともに、医療機関や群馬県立ふれあいスポーツプラザ、玉村町海洋センター、教育機関等との連携を強化し、さらに医療機関、老人保健施設等の民間活力の支援等によるリハビリテーション施設の充実を図ります。

(2) 心身障害者（児）医療助成事業の充実

心身障がい者（児）が安心して医療を受けられるよう医療機関との調整を図り、また、福祉医療対象者の拡大や助成内容の充実も図ります。

(3) 自立支援医療の充実

自立支援医療（更生医療）制度の周知を図り、身体障害者手帳所持者が適切な医療を少ない医療費負担で受けられるように支援します。

通院医療費公費負担制度の普及を図り、通院による医療費の負担を軽減し、医療を受けやすくなるように努めます。

(4) 精神医療体制の充実

緊急な精神科医療を必要とする人に対し、昼夜を問わず、常時適切な医療が受けられるよう県や関係機関等との連携・協力を図り、救急医療体制の整備、充実に努めます。

また、町内に精神科の医療機関がないため、通院のための交通機関の整備（公共バス）、移動支援事業を充実させ、医療を受けやすくするよう通院医療体制の整備、充実に努めます。

3) 教育の充実

障がいのある児童生徒が、心身の障がいに基づく種々の困難を克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、社会参加と自立ができるよう教育の充実に努めます。

また、障がいのある児童生徒への教育のあり方や、指導や訓練の方法などについて研修を重ね、個々の学力や生活能力を高める教育の保障を図るとともに、仲間の一員として、互いの人権を尊重し、共に学び合う教育の実践に努めていきます。

(1) 障がい児教育・保育の充実

個々の能力や可能性を最大限引き出すために、一人ひとりの障がいの状態、発達段階及び特性に応じ、個別の教育支援計画・指導計画を作成し特別支援教育の充実に努めます。

さらに、義務教育終了後も生きがいを持ち、自立した社会生活を営むことができるように、障がい児・生徒の進学や進路について自己選択をするための支援体制づくりをめざすとともに、福祉機関や教育機関などとの連携を強化し、障がい児・生徒や保護者に対して継続的に支援ができるような長期的な展望にたった指導の充実に努めます。

また障がい児・生徒を安全に受け入れるためにバリアフリーの学校環境の整備を推進します。

障がい児保育については、健全な成長を促進するため、より充実に努めます。

3. 福祉サービスの充実

1) 生活の安定

障害年金や各種手当は障がい者（児）の日常生活を支えるための大きな役割を果たしています。

障がい者（児）が地域社会の中で、安定した生活を送るとともに、社会参加と自立を促進するため制度の充実と有効活用を図ります。

(1) 年金制度の推進

障がい者の生活安定のために、広報等で制度の周知を図るとともに、制度の充実・改善を県・国へ要望していきます。

(2) 町の各種手当等の充実

障がい者（児）の経済的負担を軽減させるため、町の在宅重度障害児手当・腎臓機能障害者通院交通費助成・特定疾患見舞金・内臓疾患見舞金等の各種手当、助成や見舞金等の制度を継続して行い、対象者への周知を図ります。

(3) 権利擁護の普及推進

福祉サービス利用の援助を行なう関係機関やその事業内容の周知に努めます。また判断能力が不十分で福祉サービスを適切に利用することが困難な障がい者に対し、福祉サービスの利用や金銭管理などを支援する、権利擁護事業の普及、啓発を推進します。

(4) 心身障害者扶養共済制度の普及

心身障がい者を扶養している保護者が、死亡または重度障がい者となった場合に、残された心身障がい者の生活安定と福祉の増進を図るため、群馬県心身障害者扶養共済制度を周知し、加入促進に努めます。

2) 訪問系サービスの充実

介護の必要な在宅の障がい者が、引き続きすみなれた自宅で自立した生活を営むため、障害の程度や生活状況に応じた訪問系サービスが利用できるように計画的な基盤整備を図ります。

(1) 居宅介護の充実

居宅において入浴、排泄又は食事等の介護、調理、洗濯、掃除等の家事、生活等に関する相談、助言など生活全般にわたる介護を行ないます。

(2) 重度訪問介護の充実

重度の肢体不自由者であって常時介護を必要とする人に、居宅における入浴、排泄又は食事等の介護、外出時の移動支援生活等に関する相談などを総合的に行ないます。

(3) 行動援護の充実

知的障害又は精神障害により、行動が困難で常に介護の必要な人に、行動する際に生じ得る危険を回避するための援護、外出時における移動中の介護などを行ないます。

(4) 重度障害者等包括支援の充実

常時介護を必要とする人で、介護の必要の程度が著しく高い人に、居宅介護などの障害福祉サービスを包括的に提供します。

(5) 短期入所の充実

介護を行なう人が病気の場合・家事都合の場合などに、施設での短期間の入所により、入浴、排泄又は食事の介護などを行ないます。

3) 日中活動系サービスの充実

障がい者の地域で自立した生活を促進するため、社会参加や就労支援等の各種サービスが障がい者のニーズに応じて利用できるよう計画的な基盤整備を図ります。

(1) 生活介護の充実

障がい者支援施設などで、入浴、排泄又は食事等の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供などを行います。

(2) 療養介護の充実

医療と通常介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の支援を行います。

(3) 自立訓練の充実

自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行ないます。

(4) 就労移行支援の充実

一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行ないます。

(5) 就労継続支援の充実

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、継続的な就労や就労に必要な知識や能力を高める訓練を行ないます。

(6) 児童デイサービスの充実

障がい児を対象に、肢体不自由施設などに通いながら、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練などを行ないます。

(7) 地域活動支援センターの充実

障がいのある人に、創作的活動や生産活動の機会や場の提供、地域との交流を支援することを目的として事業を展開する地域活動支援センターの機能強化を図ります。

4) 居住系サービスの充実

障がい者が住み慣れた地域で、引き続き生活ができるよう、地域に密着したグループホーム等の多様な居住支援の充実に努めます。

(1) 共同生活援助の充実

主として夜間において共同生活を営む住居で、相談や日常生活上の援助を行ないます。

(2) 共同生活介護の充実

主として夜間において共同生活を営む住居で、入浴、排泄又は食事の介護などを行ないます。

(3) 施設入所支援の充実

施設に入所する人に、提供される入浴、排泄又は食事の介護等を行ないます。

5) 在宅福祉サービスの充実

障がい者（児）が地域の中で共に生きるためには障がいに応じた各種在宅福祉サービスの提供及び確保が不可欠です。

今後さらに、障がい者（児）が可能な限り、自立して地域で共に暮らしていけるよう、障がい者（児）とその家族の生活を支援するため、各種在宅福祉サービスの充実を図ります。

(1) 補装具・日常生活用具給付事業の充実

日常生活を便利にするため、また自立と社会参加を支えるために必要な補装具・日常生活用具等の福祉機器の給付事業を広く周知し、利用の促進を図ります。

(2) 重度心身障害者（児）住宅改修費補助の充実

障がい者（児）が住み慣れた自宅で、安全で快適な生活を送ることができるよう、重度心身障害者（児）住宅改修費補助制度やその他の改造に対する助成制度などの周知や利用上の相談に応じ、障がい者（児）の快適な居住環境の確保に努めます。

(3) 重度心身障害者（児）入浴サービスの充実

家庭での入浴が困難な重度心身障がい者（児）に対し、移動入浴車による入浴サービスを現在、社会福祉協議会に委託し行っています。今後も入浴サービスを継続して行い、サービスの提供に努めます。

(4) 日中一時支援事業の充実

介護者が何らかの理由で一時的に介護することができない場合のため、また介護負担を軽減するため、平成13年度からこの事業を開始しました。現在利用者も増加してきましたが、さらに広く周知を図るとともに、利用の促進を図ります。

(5) 福祉タクシー料金給付事業の充実

重度身体障がい者の外出の便宜を図るため、タクシーを利用した場合その料金の一部を給付します。

(6) 移動支援事業の充実

障がいを持ち一人で外出することが困難な人に、社会生活を営む上で必要となる外出や余暇活動などの社会参加を促すため、外出時の移動を支援します。

(7) 障害者福祉センターの充実

在宅の知的障がい者、身体障がい者及び精神障がい者の福祉の向上を図るため障害者福祉施設の利用者へのサービス向上を図り、障がい者の社会的・経済的な自立を支援します。

6) 相談窓口の設置

障がい者（児）が地域の中で生活するうえで、障がい者（児）やその家族が医療・保健・福祉・教育・職業等総合的に気軽に相談できる体制の整備、拡充を図ります。

(1) 相談事業所の活用

指定相談支援事業所のばら等と密接な連携をとりながら、利用の促進を図ります。

(2) 群馬県巡回相談、訪問審査の実施

相談、指導、判定等を身近な場所で受けられるよう、群馬県心身障害者福祉センターに出向けない障がい者（児）のための巡回相談や訪問診査を実施して福祉の向上に努めます。

(3) 相談体制の充実

医療機関、障がい者団体、家族会などと連携を深め、また障害者相談員、民生委員・児童委員、相談支援事業所などの活動を支援します。また、自立支援協議会開催により地域の相談支援体制やネットワークの構築を図るとともに、障がい者や家族が安心して相談でき、適切な助言が受けられるよう研修などにより担当職員や障害者相談員の資質向上を図り、障がい者に関連する相談機能の強化を図ります。

7) 情報提供・PR

現代の社会生活では、「情報」は極めて重要なものとなっています。

さらに、社会参加を推進するためには、情報を発信する際に障がい者が受けやすい形で、できる限り多くの情報を提供することが大切です。

障がい者（児）の誰もが必要な情報を身近なところで、的確に入手できるように、情報提供の充実に努めます。

(1) 福祉制度・福祉サービスの普及啓発

福祉制度や福祉サービスを提供するためには、制度や福祉サービスについて、障がい者（児）が内容を十分理解することが必要です。

このため、広報・ホームページ等を活用するとともに、あらゆる機会を活用した啓発活動をとおして、必要な福祉制度や福祉サービスが必要なときに適切に受けられるよう普及啓発に努めます。

(2) 点字・朗読サービスによる情報提供

視覚障がい者（児）への福祉制度、福祉サービス、広報や地域の情報を点字で提供することを目的に、平成6年度から点字情報システムを導入し、また、広報の内容をボランティアによる朗読により、現在提供しているところですが、今後も継続し対象者への情報提供に努めます。

また、視覚障がいに限らず、それぞれの障がいに合わせた情報提供を行えるよう、今後検討していきます。

4. 社会参加の促進

1) 雇用・就労の促進

働く意欲を持つ障がい者に対して、その適性と能力に応じた多様な就労の機会や場を確保していくことは、経済生活の自立の手段としてはもとより、障がい者の働く権利、自己実現、さらには社会への参加と貢献等生きがいを得るという観点から大変重要ですので、雇用・就労の促進を図れるよう啓発活動等に努めます。

(1) 雇用の促進

障がい者(児)の雇用に関する正しい理解と認識を深め、障がい者(児)のそれぞれの適性と能力に応じた適切な雇用の場を確保し、その安定を図るため雇用・就労の促進を図ります。

障がい者の働く機会を拡大するため、国や県などの関係機関と連携して、障害者雇用支援月間(9月)を中心に、障がい者の雇用や就労問題に関わる啓発活動に努めます。

啓発活動を進めるにあたっては、経営者はもとより広く町民に対しても障がい者の雇用の理解と協力を求めます。また、障がい者就業支援センターとの連携を図るとともに、法定雇用率を守るようにハローワーク等に働きかけていきます。

(2) 各種助成金制度の活用

事業主の経済的負担を軽減し、積極的な就労の確保のため、ジョブコーチ制度、職親制度や各種助成金制度の活用について周知に努めます。

2) スポーツ・レクリエーション・文化活動の促進

スポーツ、レクリエーション、文化活動に参加する機会を確保することは、自立と社会参加の促進を図るとともに、生きがいを感じられる生活を実現するために不可欠なものです。また、障がいや障がい者（児）に対する理解を進めるという意味においても大変重要なため、施設の整備、情報提供の充実を図り、積極的に推進します。

(1) 障がい者（児）のスポーツ振興

障がい者（児）が参加しやすいスポーツを紹介するなど、スポーツ教室等を通じて障がい者（児）スポーツの普及を進め、競技スポーツ、レクリエーション、健康増進など一人ひとりの目標・目的に応じた生涯スポーツ・レクリエーション活動の環境づくりを進めます。

また、交流を深めるためにも、スポーツ大会等への積極的な参加を促進します。

(2) スポーツ・レクリエーション施設等の改善

スポーツ、レクリエーション、文化活動を推進させるため、社会体育館、海洋センター、公民館、文化センター等の公共施設を障がい者（児）や高齢者に対応した施設への改善に努めます。

(3) 情報の提供

広報、ホームページ、障がい者団体等を通じて、障がい者（児）に対してスポーツ、レクリエーション、文化活動などの各種情報及び活動場所の提供を図ります。

5. 社会環境の整備

1) 日常生活環境の整備

ユニバーサルデザインに配慮した生活環境の整備を推進します。

このため、障がい者（児）等すべての人が安全に安心して生活し、社会参加できるよう、住宅、建築物、公共交通機関、歩行空間など生活空間のバリアフリー化の整備を推進します。

(1) 住みよいまちづくりの推進

障がい者（児）や高齢者を含むすべての町民が安心して快適な生活を送ることができるよう、道路や公園、公共施設等のバリアフリー化を進めます。また、病院など、幅広い人が利用するような民間の施設についても、障がい者（児）や高齢者に配慮したものとするよう関係機関の理解と協力を積極的に求め、改善・整備の促進に努めます。

また、身体障害者補助犬法が施行されたことにより、補助犬の同伴に関することを公共的施設等については、周知徹底するとともに、民間施設についても理解と協力を積極的に求めています。

(2) 町営住宅の整備

今後、町営住宅の整備にあたっては、障がい者（児）や高齢者に住みよい設備、環境を整え入居枠を拡充して、地域で自立し、安全で快適な生活ができるよう努めます。

(3) 住宅対策の充実

障がい者（児）が住み慣れた自宅で、安全で快適な生活を送ることができるよう、重度身体障害者（児）住宅改造費補助制度やその他の改造に対する助成制度などの周知や利用上の相談に応じ、障がい者（児）の快適な居住環境の確保に努めます。

2) 交通対策の推進

障がい者（児）の社会参加の機会や行動範囲の拡大を図るため、障がい者（児）の移動におけるハンディキャップの軽減と道路環境や移動手段の確保に努めます。

(1) 交通安全施設の整備

障がい者（児）はもとより、すべての住民が安全に通行できる歩行空間の確保に努めるとともに、車道と歩道の段差解消、点字ブロックの設置、防護柵の設置、絵や記号による案内表示などの整備を図ります。国道、県道についても、安全な歩行空間の整備を要望していきます。

(2) 交通・移動対策の充実

障がい者（児）の交通・移動対策を充実させるため、町が実施している福祉タクシー制度、また、鉄道運賃などの割引制度等の周知を図ります。

車いす利用者の移動手段の援助として、福祉車両貸出事業を継続して行い、福祉の向上を図ります。

乗り合いタクシー「たまりん」は車いすに対応し、車いす乗降用全自動スライドリフトを装着し、併せて乗り降りの時の段差を軽減するため電動補助ステップを装着していますが、より多くの方の利用を目指し、広く周知を図ります。

また、障がい者（児）の外出を円滑にするため、歩行や車いす通行の妨げとなる放置自転車や違法な立て看板などの撤去を置こうとともに、道路障害物の除去に関する広報・啓発活動に努めます。

3) 防災体制の確立

障がい者（児）が住みなれた地域で安心して暮らせる環境を確保するため、災害等に迅速に対応できるよう、地域に密着した防災体制の確立に努めます。

(1) 防災知識の啓発

災害時の被害を最小限に食い止めるため、各種パンフレットや防災対策講習会、防災訓練などにより防災知識の普及に努めます。

また、地域ぐるみで災害から障がい者を守る意識の高揚に努めます。また、障がいの分野に応じた講習会等も開催し、防災知識の普及を図ります。

(2) 障がい者に配慮した防災体制の確立

災害時における迅速・明確な情報の伝達、障がい者の避難誘導體制の確立に努めます。

また地域ごとに自主防災組織を育成するとともに、障がい者の状況の把握、および緊急時における安否確認、避難誘導等の体制の確立を図ります。

第4章 数値目標及びサービス見込み量

1. 地域生活への移行に関する数値目標

1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行

○第1期計画では、国の指針沿って、下記のとおり数値目標を設定しました。

平成23年度末までに、現時点での入所施設の入所者の10%以上が地域生活に移行することを目指すとともに、平成23年度末時点の施設入所者数を7%以上削減することを基本としつつ、地域の実情に応じた目標を設定する。

○第2期計画の目標値

項目	数値
平成17年10月1日時点の施設入所者数	36人
【目標値】 平成23年度までに施設から地域生活移行する者の見込み数	3人
【目標値】 平成23年度末時点の入所見込み数	35人

2) 入院中の精神障がい者の地域生活移行

○第1期計画では、国の指針沿って、下記のとおり数値目標を設定しました。

平成24年度までに、精神科病院入院患者のうち「受け入れ条件が整えば退院可能な精神障がい者の解消を目指し、平成23年度における退院可能精神障がい者数の減少目標値を設定する。

○第2期計画の目標値

項目	数値
平成20年10月調査時点の入院患者数	54人
【目標値】 うち、平成23年度までに退院可能見込み数	12人
【目標値】 うち、精神障がい者地域移行支援特別対策事業による退院見込み数	12人

○上記の精神障がい者地域移行支援特別対策事業による退院見込み数の年度ごとの数

平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計
3人	4人	5人	12人

2. 福祉施設から一般就労への移行に関する数値目標

○第1期計画の数値目標

現時点の一般就労への移行実績の4倍以上とすることを目指し、平成23年度中に一般就労に移行する者の数値目標を設定する。

○第2期計画の目標値

項目	数値
平成17年度において福祉施設を退所し、一般就労した者の数	1人
【目標値】 平成23年度において福祉施設を退所し、一般就労する者の数	2人

3. サービス必要量の見込み

【見込量の単位について】

サービス見込み量は、各サービスごとの各年度末における 1 か月当たりの総量を見込んだものであり、単位の考え方は次のとおりです。

「人/月」 月間の実利用者数

「時間/月」 月間の延べサービス提供時間

「人日/月」 「月間の実利用者数」×「1 人 1 か月当たりの平均利用日数」で算出される延べサービス量（例えば 10 人が 1 か月に平均して 20 日利用する場合、200 人日/月となります。）

サービス必要量の見込み

サービスの種類	単位	21 年度末	22 年度末	23 年度末
居宅介護 重度訪問介護	利用者数 人/月	35	39	43
行動援護 重度障害者等包括支援	利用量 時間/月	1,102	1,185	1,324
生活介護	利用者数 人/月	28	34	58
	利用量 人日/月	560	680	1,160
自立訓練（機能訓練）	利用者数 人/月	1	1	1
	利用量 人日/月	22	22	22
自立訓練（生活訓練）	利用者数 人/月	2	3	4
	利用量 人日/月	44	66	88

就労移行支援	利用者数 人/月	11	11	14
	利用量 人日/月	242	242	308
就労継続支援（A型）	利用者数 人/月	0	0	1
	利用量 人日/月	0	0	22
就労継続支援（B型）	利用者数 人/月	18	28	32
	利用量 人日/月	360	560	640
療養介護	利用者数 人/月	0	0	1
児童デイサービス	利用者数 人/月	3	3	3
	利用量 人日/月	45	45	45
短期入所	利用者数 人/月	3	4	4
	利用量 人日/月	12	16	16
共同生活援助 （グループホーム） 共同生活介護 （ケアホーム）	利用者数 人/月	15	17	20
施設入所支援 （旧法入所施設を除く）	利用者数 人/月	6	11	35
相談支援 （サービス利用計画作成）	利用者数 人/月	2	2	2

4. サービス見込量確保のための方策

1) 訪問系サービス

訪問系サービスについては、地域生活への移行に伴い、居宅介護等のニーズが高まることが予想されることから、事業者やホームヘルパーの確保を進めていきます。

特に精神障がい者を対象とした居宅介事業については、実施している事業者が少ないので、重度障がい者等包括支援と共に、新規参入者の促進に努め、サービス基盤を整備していきます。

2) 日中活動系サービス

日中活動系サービスについては、利用者の状況に応じ、居住系サービスと組み合わせて必要なサービスを選択することができるようになりました。

サービス提供体制については、サービス提供事業者が、利用者の意向を踏まえながら新体系へ移行することになりますので、新体系サービスへ円滑に移行できるよう支援を行います。

3) 居住系サービス

居住系サービスについては、地域生活への移行を進めていくために、グループホーム及びケアホームの確保が必要となります。特に、退院可能な精神障がい者が地域で安心して生活するための居住の場が確保されるよう、利用者のニーズに応じた適切な、サービス量の確保を図る必要があります。

また、公営住宅や民間賃貸住宅の入居促進を図るための、居住サポート事業の実施も検討していきます。さらに、障がいのある人の地域への移行を推進していくために、障がいに対する知識の普及啓発や交流を通じて、障がいのある人に対する正し

い理解の促進に努めます。

4) 相談支援（サービス利用計画作成）

障がい者が、様々なサービスや地域資源を活用しながら、地域で自立して安心して暮らしていけるよう、障がい者の相談支援の充実を図っていきます。またサービス利用計画の作成対象者について支援するとともに、利用を促進します。

5. 地域生活支援事業

障がいのある人がその有する能力及び適正に依りて、自立した日常生活、社会生活を営むことができるように、障害者自立支援法に基づいた「地域生活支援事業」を実施します。

実施事業は、法令により必須とされている「相談支援事業」「コミュニケーション支援事業」「日常生活用具給付事業」「移動支援事業」「地域活動センター事業」に加え、「福祉ホーム事業」「訪問入浴サービス事業」「更正訓練費給付事業」「知的障害者職親委託制度」「日中一時支援事業（宿泊を伴わない短期入所）」等おこないます。

今後も障がいのある人の様々なニーズを踏まえ、必要なサービスを検討していきます。

参 考 资 料

障害者福祉計画策定の経過

月	策定作業	会議等の開催	備考
5月	○現状把握		
6月	○施策等の検討	○策定懇談会委員公募者の選定	
7月	○アンケート内容の検討	○第1回策定懇談会	
8月	○アンケート実施		
9月	○アンケート集計		
10月	○アンケート結果の分析		
11月	○計画の基本方針・施策体系の検討		
12月	○計画の基本方針・施策体系の決定		
1月	○計画素案の作成	○第2回策定懇談会	
2月	○計画案関係機関協議 ○行動計画の決定	○第3回策定懇談会	
3月	○第3次玉村町障害者福祉計画策定 ○第2期障害福祉計画策定		

玉村町障害者福祉計画策定懇談会設置規程

(設置)

第1条 玉村町における障害者福祉推進のため計画策定を行うにあたり、広く町民及び関係者の意見、提言を反映させるため、玉村町障害者福祉計画策定懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会は、玉村町障害者福祉計画及び玉村町障害福祉計画に関する事項について、調査及び審議する。

(組織)

第3条 懇談会は、次に掲げる者で組織し、町長が委嘱する。

- | | |
|-----------------|----|
| (1) 医師 | 1名 |
| (2) 区長会 | 1名 |
| (3) 民生委員児童委員協議会 | 2名 |
| (4) 身体障害者連合会 | 1名 |
| (5) ボランティア連絡協議会 | 1名 |
| (6) 障害者相談員 | 1名 |
| (7) 障害者の親 | 2名 |
| (8) 社会福祉協議会 | 1名 |
| (9) 障害者福祉施設長 | 1名 |
| (10) 公募 | 2名 |

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から当該所掌事項の調査審議が終了するまでの期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 懇談会に、会長及び副会長1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により選任する。

3 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 懇談会は、会長が招集し、会長はその議長となる。

2 懇談会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 懇談会は、必要があると認めるときは、懇談会を構成する者以外の者の出席を求め、意見を求めることができる。

(庶務)

第8条 懇談会の庶務は、健康福祉課社会福祉係において行う。

(その他)

第9条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、第2条の調査審議の終了の日限り、その効力を失う。

玉村町障害者福祉計画策定懇談会委員名簿

	氏 名	所 属	備考
委 員 長	佐藤 實	民生児童委員協議会長	
副委員長	青野 清	区長会長	
委 員	渡邊 徹	医 師	
委 員	高橋 文子	民協自立支援部会長	
委 員	富田 淳	身障連会代表	
委 員	田中 美智子	ボランティア連協	
委 員	佐藤 謡子	障害者相談員	
委 員	松本 幸代	障害者父母の会	
委 員	滝澤 俊幸	障害者保護者	
委 員	小川 和之	障害者保護者	
委 員	岡本 勝美	社会福祉協議会	
委 員	辻 光弘	障害者福祉施設	
委 員	田中 早苗	公 募	
委 員	堀川 美智子	公 募	

アンケート調査の概要

1. 調査目的

本計画の策定にあたり、障がい者福祉の現状や住民の要望・意見を把握し、計画に反映させるため、「玉村町障害者福祉計画アンケート調査」を実施しました。

2. 調査対象

1) 身体障がい者（児）調査

身体障害者手帳所持者より無作為に抽出 250人

2) 知的障がい者（児）調査

療育手帳所持者より無作為に抽出 50人

3) 精神障がい者調査

自立支援医療費利用者より無作為抽出 50人

4) 一般町民調査

20歳以上の男女で（年代別）住民基本台帳より
無作為に抽出 293人

3. 調査方法調査期間

平成20年8月25日郵送配布・9月10日まで郵送回収

4. 回収状況

身体障がい者（児）調査	回収	144通（57.6%）
知的障がい者（児）調査	回収	36通（72.0%）
精神障がい者調査	回収	26通（52.0%）
一般町民調査	回収	117通（39.9%）

身体障がい者（児）アンケート結果

全体の67%が、ご本人による回答でした。身体障害者手帳の1、2級所持者が70名いるにもかかわらず、障害年金受給者は41名に留まっています。高齢の障がい者が多く、老齢年金の受給者も多いと思いますが、障害年金をもらえるはずなのにもらえないということがないよう、周知していく必要があると思われまます。

前回調査時よりも単身や2人世帯が多くなっています。自身や介護者の体調の悪化などに備え、居宅介護の利用方法など必要な情報を提供していくことが必要です。

ほとんどの人が持ち家で生活していますが、階段や段差に苦労する、風呂やトイレが使いづらいといった不便さを感じているようです。住宅改造が金銭的に難しいという人に対して、どのように支援していくのか検討が必要だと思われまます。

外出の頻度については、78%の人が週に1回以上の外出（前回調査時は53%）をしており、多少なりとも外出をする人が増えたのではないかと感じまます。しかしながら、依然として自家用車以外の公共交通機関やタクシー等の充実を求める意見も多く、外出手段の充実が求められています。外出先の段差解消やトイレ設備の充実も必要不可欠です。

災害発生時に、安全なところまで迅速に避難できないという不安を持っている人が多いので、防災関係機関と連携を図り、避難経路の確保や避難時の支援体制を確立していくことも必要です。

障害者自立支援法について、「知らない」、「聞いたことも無い」と答えた人が半数を占めています。全ての障がい者が障害者自立支援法を知り、必要なサービスを受けられるような社会を構築できるよう、広報活動を推進していく必要があると思われまます。

生活する上で知りたい情報は、余暇活動、福祉、医療など多岐にわたっていることがわかります。その情報源として、町広報が、テレビ・ラジオ・新聞の34.3%に続く30.6%を占めていることから、町広報を福祉全般に関する情報を提供していく有用な手段としてとらえ、情報の充実を図っていく必要があります。

知的障がい者（児）アンケート結果

障がい特性から回答者は80.6%が親で、年齢は18歳～39歳が最も多く52.8%であり、次いで7歳～17歳の25%で対象者は若い方が多い結果となっています。障がいの特性には障がい特性の強い方が対象として多く、障がいの主な原因は先天的な方が多い結果となっています。

ハンディが重くその対応が、教育・住環境・地域社会・社会生活等多岐にわたって浮き彫りになっています。

特に具体的な地域参加になると、付添者や介助補助者がいないという強い不安が寄せられています。介助の動向として、核家族の方が多く介護・生計の中心は親であり、介助サービスの支援の仕方が課題になってくると考えられます。

福祉サービスの利用等理解については、対象者が若い世代だったので概ね浸透しているようだが、前記と同様サービスの動向として大きく問題として上がってきたのは、移動支援の問題であり、この課題の対策が結果から特に必要に思われます。

また、災害時の対応として障がい特性から町の避難場所での対応が心配されているが、現在、障害者福祉センターのばら・たんぽぽは、町との協議により障がい者（児）の避難場所として対応する事になっており、啓発が不足しているようです。

なお、福祉教育は進んできているが、住民の方々の理解度をより高め共生社会を築き上げる必生性が読み取れる。意見に会ったように、「地域の人々に理解され、共に支えあいながら社会地域の一人として、安心して暮らしていける」町づくりが望まれています。

精神障がい者アンケート結果

本人による回答が92%で、20～50歳代の働き盛りの年齢の人が殆どでした。住居は持ち家が73%で、今後も家族のいる自宅での生活を望んでいる人が半数いました。

現在の生活状況は、身の回りのことは全て自分で行き、自由に行動できる人が65%で、何らかの手助けが必要な人は25%でした。外出状況は、96%の人が週1回以上外出をしており、そのうち外出時の介助を求めている人は7%で、公共機関の充実を求めている人は25%でした。

就労状況は、正規職員やパートなど就労している人は46%で、福祉施設通所者は8%、在宅で家事などを行っている人は27%でした。今後、住みよい町づくりのために重要なことはなんですかという質問では、働く場の確保や職業紹介を求めている人が最も多く、今後も障害者就労支援センターやハローワークでの障害者雇用相談所の紹介など、情報提供を行っていく必要があります。

日中どのように過ごしたいかについては、就労したいが54%を占めて、次いで自宅で好きなことをして過ごすとなっています。働くための条件として、病気を理解してサポートしてくれる職場を望んでおり、精神障がい者が働きやすい環境づくりが必要と思われます。

話し相手や相談相手については、96%がいると答えています。家族以外で身のまわりのことを協力してくれる人が必要かの質問に対しては、必要と答えた人が23%でした。さらに協力してほしい内容については、事務的な手続きが多く、次いで家事、外出（通院）時の援助となっています。今後在宅の精神障がい者に対する、家事援助や外出支援などのホームヘルプサービスの必要性がうかがわれます。

医療面については、全回答者が通院しており、通院の手段として、自分で行くと家族と一緒にいくが半々でした。医療を受けるのに困っていることは、通院するのに交通費がかかる（20%）、医療費がかかる（20%）、家族への負担がかかりすぎる（20%）でした。また、通院医療費公費負担制度を受けている人は88%で、精神障害者手帳を所持している人は38%でした。公費負担制度や手帳などの福祉サービスを受けていない人は「そういう制度を知らなかった」と答えている人が大多数

で、福祉サービスの周知徹底が必要です。さらに緊急のときに対応してくれる精神科救急医療体制の充実が望まれます。

精神障がい者のための施設や在宅福祉サービスについては、いずれも知らないと答えた人が半数以上おり、サービス内容の周知を図るとともに、利用しやすいように手続きの簡素化や福祉サービスの充実が望まれます。

日常生活の情報提供については、30%の人が不満と答えており、生活・医療福祉に関する相談や援助、制度についての情報を町の広報誌や健康福祉課窓口を通して、提供していく必要があります。

また、障がい者に対する一般住民の理解について、理解されていないと感じている人が62%で、福祉教育や広報などにより、一般住民に対して精神障がい者への理解を望まれる人が多く見られました。

一般町民アンケート結果

回答をいただいた人のほとんどが家族で生活をしています。地域の中で障がいを持つ人が困っていた場合には、97%の人が手助けをすると回答しています。また障がいを持つ人の問題については、74%の人が関心があり、43%の人が家族で障がいについて話し合ったことがあると回答しています。さらに、68%の人がボランティア活動について関心があると回答しているので、マンパワーは存在しているのですが、80%の人が活動したことがないと回答し、活動したことがない理由として、32%の人が仕事や家事が忙しく時間がとれないと回答しています。ボランティア活動自体には関心はあるけれども、日々の生活が忙しく、ボランティア活動を行う余裕が無いというのが現状のようです。

もし障がいをもった場合に、59%の人が自宅で生活をしたいと考えています。しかし、45%の人が玉村町は障がいをもつ人にとって住みにくいと回答し、住みやすいと答えた人を上回っています。その理由として、交通機関が利用しにくいと回答した人が36%と最も多く、交通・移動の充実が必要との結果となっています。

玉村町障害者福祉計画アンケート調査結果（身体障がい者・児）

アンケート郵送数250通

回収数・・・144通

回収率・・・57.6%

回答者 ご記入くださるのとはどなたですか。

選択項目	人数	構成比
本人	97	67.4%
父親・母親	12	8.3%
配偶者	19	13.2%
子供	13	9.0%
その他	2	1.4%
無回答	1	0.7%
計	144	100.0%

問1 年齢は何歳ですか

選択項目	人数	構成比
0歳～6歳	4	2.8%
7歳～17歳	6	4.2%
18歳～39歳	8	5.6%
40歳～64歳	49	34.0%
65歳～	76	52.8%
無回答	1	0.7%
計	144	100.0%

問2 性別は

選択項目	人数	構成比
男	84	58.3%
女	60	41.7%
無回答	0	0.0%
計	144	100.0%

問3 障がいの内容は何ですか

選択項目	人数	構成比
視覚障がい	14	9.7%
聴覚、平衡機能障がい	7	4.9%
声、言語、そしゃく機能障がい	3	2.1%
肢体不自由	78	54.2%
内部障がい	42	29.2%
無回答	0	0.0%
計	144	100.0%

問4 身体障害者手帳の等級

選択項目	人数	構成比
1級	48	33.3%
2級	22	15.3%
3級	31	21.5%
4級	26	18.1%
5級	9	6.3%
6級	6	4.2%
無回答	2	1.4%
計	144	100.0%

問5 障害の主な原因は

選択項目	人数	構成比
疾病	64	44.4%
妊娠・出産時の損傷	3	2.1%
先天性	14	9.7%
交通事故	4	2.8%
労働災害	9	6.3%
戦傷・戦病・戦災	1	0.7%
その他の事故・災害	7	4.9%
その他	11	7.6%
不明	20	13.9%
無回答	11	7.6%
計	144	100.0%

問6 障害者年金を受給していますか。

選択項目	人数	構成比
1級	17	11.8%
2級	11	7.6%
3級	13	9.0%
その他	5	3.5%
受給していない	94	65.3%
無回答	4	2.8%
計	144	100.0%

問7 一緒に暮らしているのは何人

選択項目	人数	構成比
1人	21	14.6%
2人	54	37.5%
3人	28	19.4%
4人	26	18.1%
5人	7	4.9%
6人以上	7	4.9%
無回答	1	0.7%
計	144	100.0%

問8 どなたと一緒に暮らしていますか

選択項目	人数	構成比
親	30	14.7%
配偶者	83	40.7%
兄弟姉妹	10	4.9%
子供	49	24.0%
孫	11	5.4%
一人暮らし	17	8.3%
祖父母	2	1.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	1.0%
計	204	100.0%

問9 世帯の生計の中心者はどなたですか。

選択項目	人数	構成比
本人	70	48.6%
配偶者	40	27.8%
親	12	8.3%
祖父母	2	1.4%
子供	9	6.3%
兄弟姉妹	2	1.4%
その他	2	1.4%
無回答	7	4.9%
計	144	100.0%

問10 世帯の主な収入は何ですか。

選択項目	人数	構成比
自営業収入	18	12.5%
勤労収入（正社員）	37	25.7%
勤労収入（臨時、パート）	4	2.8%
障害年金	10	6.9%
年金（障害年金除く）、恩給	68	47.2%
手当（特別障害者手当など）	0	0.0%
生活保護	1	0.7%
仕送り	0	0.0%
財産収入（家賃、地代、利子等）	2	1.4%
その他	2	1.4%
無回答	2	1.4%
計	144	100.0%

問11 住居について教えてください。

選択項目	人数	構成比
持ち家	119	82.6%
町営住宅	4	2.8%
社宅、官舎、療	1	0.7%
一戸建民間借家	3	2.1%
アパート、賃貸マンション	8	5.6%
間借り	0	0.0%
その他	5	3.5%
無回答	4	2.8%
計	144	100.0%

問12 住宅で困っていることは

選択項目	人数	構成比
現在のままでよい	78	43.6%
転居したいが障がい者に配慮した住宅がない	4	2.2%
立ち退きを求められている	0	0.0%
玄関や廊下が狭く移動が難しい、緊急時の避難が心配	14	7.8%
階段や段差に苦労する	21	11.7%
風呂やトイレが使いづらい	11	6.1%
住宅改造したいが改造内容など相談するところがない	0	0.0%
住宅改造したいが資金がない、または借りられない	16	8.9%
家賃やローンの負担が大きい	9	5.0%
その他	7	3.9%
無回答	19	10.6%
計	179	100.0%

問13 食事の支度はどのようにしていますか

選択項目	人数	構成比
自分でする	57	33.1%
家族（親族）がしてくれる	86	50.0%
近所の人がしてくれる	0	0.0%
外食している	1	0.6%
出来合を買ってくる	9	5.2%
出前、配食サービス	0	0.0%
その他	13	7.6%
無回答	6	3.5%
計	172	100.0%

問14 食事の支度を他の人に頼むとするとそれはどなたですか

選択項目	人数	構成比
家族、親族	83	50.0%
近所の人	1	0.6%
ホームヘルパー、ボランティア	25	15.1%
配食サービス	12	7.2%
頼まない	21	12.7%
その他	5	3.0%
無回答	19	11.4%
計	166	100.0%

問15 本人が未就学の方は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
保育所	2	1.4%
幼稚園	0	0.0%
通園施設	1	0.7%
自宅	1	0.7%
その他	2	1.4%
無回答	138	95.8%
計	144	100.0%

問16 本人が義務教育期間の方は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
小、中学校の普通学級	4	2.8%
小、中学校の特殊学級	0	0.0%
小、中の養護学校、盲学校、ろう学校	3	2.1%
自宅訪問教育	1	0.7%
その他	1	0.7%
無回答	135	93.8%
計	144	100.0%

問17 本人が義務教育期間を過ぎたの方は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
何らかの教育を受けている	3	2.1%
収入が得られる仕事に就いている	25	17.4%
通所の福祉サービスを利用	5	3.5%
施設入所	0	0.0%
在宅	24	16.7%
その他	3	2.1%
無回答	84	58.3%
計	144	100.0%

問18 問17で、①を選んだ方はどのようにして教育を受けていますか

選択項目	人数	構成比
高校に通う	1	33.3%
養護学校、盲学校、ろう学校の高等部	1	33.3%
大学・短大・専修学校に通う	1	33.3%
職業訓練校に通う	0	0.0%
通信教育を受ける	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	3	100.0%

問19-1 問17で、②を選んだ方は伺います（仕事の状況）

選択項目	人数	構成比
自営業	4	16.0%
家の仕事（家事）の手伝い	1	4.0%
勤め（正社員、正職員）	11	44.0%
勤め（臨時、パート等）	7	28.0%
内職	1	4.0%
福祉施設等での就労	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	4.0%
計	25	100.0%

問19-2 問17で、②を選んだ方は伺います（仕事の内容）

選択項目	人数	構成比
農林業	2	8.0%
鉱業	1	4.0%
建設業	1	4.0%
製造業（印刷含む）	4	16.0%
電気、ガス、水道業	1	4.0%
運輸、通信業	0	0.0%
卸売、小売業、飲食業	2	8.0%
金融、保険業	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
あんま、マッサージ、はり、きゅう	0	0.0%
清掃業、クリーニング業	0	0.0%
パソコン、ソフトウェア関連	0	0.0%
その他のサービス業	3	12.0%
事務	7	28.0%
その他	2	8.0%
無回答	2	8.0%
計	25	100.0%

問20 職場や学校で困っていることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に困っていることはない	15	9.8%
仕事または学校が自分に向いていない	2	1.3%
障がいと障がい者に対して章句場や学校での理解が足りない	5	3.3%
トイレなど職場や学校の設備が障がい者に配慮されていない	5	3.3%
通勤、通学が大変	4	2.6%
賃金が低い、授業料が高い	5	3.3%
労働時間、授業時間が長い	3	2.0%
その他	2	1.3%
無回答	112	73.2%
計	153	100.0%

問21 在宅で仕事をしていない方は、その主な理由

選択項目	人数	構成比
重い障がいのため	19	13.2%
病気のため	17	11.8%
高齢のため	24	16.7%
家事をしているため	9	6.3%
自分にあった仕事がないため	1	0.7%
理解のある職場がないため	2	1.4%
通勤が難しいため	0	0.0%
就業をしたいが相談するところがない	0	0.0%
その他	2	1.4%
無回答	70	48.6%
計	144	100.0%

問22 障がい者の教育の場についてどう思いますか

選択項目	人数	構成比
地域の学校で学ぶのが良い	37	23.0%
養護学校などで学ぶのが良い	15	9.3%
在宅で学ぶのが良い	9	5.6%
理解のある学校がない	4	2.5%
通学が難しい	2	1.2%
就学・進学について相談するところがない	1	0.6%
その他	9	5.6%
無回答	84	52.2%
計	161	100.0%

問23 障がい者の就労についてどのように考えますか。

選択項目	人数	構成比
一般企業などで雇用を望む	37	25.7%
障がい者の雇用は難しい点があり福祉的就労を望む	18	12.5%
障がい者が就労するのは無理だと思う	10	6.9%
自営業を営みたい	5	3.5%
その他	5	3.5%
無回答	69	47.9%
計	144	100.0%

問24 生活行動の状態はどうでしょうか。

選択項目	人数	構成比
一人で自由に行動できる	67	46.5%
町内程度なら一人で外出できる	12	8.3%
自宅周辺なら一人で外出できる	6	4.2%
誰かと一緒なら外出できる	31	21.5%
家から出られない	8	5.6%
その他	11	7.6%
無回答	9	6.3%
計	144	100.0%

問25 外出するときの主な交通手段は

選択項目	人数	構成比
自家用車（自分で運転）	65	45.1%
自家用車（家族等が運転）	39	27.1%
バス	4	2.8%
電車	1	0.7%
タクシー	3	2.1%
原付自転車、バイク	3	2.1%
利用しない（徒歩、自転車等）	8	5.6%
車いす	7	4.9%
その他	6	4.2%
無回答	8	5.6%
計	144	100.0%

問26 外出の日数はどれくらいですか

選択項目	人数	構成比
ほとんど毎日	42	29.2%
週に3～4日	35	24.3%
週に1～2日	36	25.0%
月に2～3日	8	5.6%
年に数回	6	4.2%
外出しない	5	3.5%
無回答	12	8.3%
計	144	100.0%

問27 外出の主な目的は

選択項目	人数	構成比
仕事、学校（通勤、通学）	29	11.8%
施設に通うため（通所）	16	6.5%
治療、リハビリ（通院）	61	24.8%
買い物	72	29.3%
レクリエーション	8	3.3%
散歩	18	7.3%
地域の行事	9	3.7%
旅行	4	1.6%
その他	14	5.7%
無回答	15	6.1%
計	246	100.0%

問28 外出する時に困ることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に困っていない	73	40.1%
入り口や施設の中に階段や段差が多い	27	14.8%
入り口や道路が狭い	5	2.7%
車いす用のトイレがない	18	9.9%
点字表示、音声案内を含め、案内表示が少ない	7	3.8%
エレベーターが少ない	8	4.4%
滑り止めのある床が少ない	6	3.3%
施設の駐車場が少ない	10	5.5%
手話のできる人が少ない	0	0.0%
その他	3	1.6%
無回答	25	13.7%
計	182	100.0%

問29 あなたが現在町内で不便を感じている施設は

選択項目	人数	構成比
特にない	71	43.6%
役場	8	4.9%
役場を除く官公署	3	1.8%
銀行、郵便局	15	9.2%
スーパー、コンビニ、レストラン	13	8.0%
病院	15	9.2%
文化センター	1	0.6%
図書館	2	1.2%
社会体育館	1	0.6%
老人福祉センター	0	0.0%
学校	0	0.0%
障害者福祉センター	2	1.2%
その他	4	2.5%
無回答	28	17.2%
計	163	100.0%

問30 障がい者が外出する時に必要なことは何だと思いますか

選択項目	人数	構成比
特に必要ない	23	6.2%
バスなどの公共交通機関の充実	49	13.2%
福祉タクシー等の充実	49	13.2%
建物の段差の解消やエレベーターの設置	40	10.8%
歩道の拡幅や段差の解消	28	7.5%
視覚障がい者のための音声誘導信号機の充実	11	3.0%
点字ブロックの充実	2	0.5%
建物や公園の障がい者対応トイレの設置	32	8.6%
施設、道路ガイドマップ	6	1.6%
音声増幅付き公衆電話	2	0.5%
ファックス付き公衆電話	3	0.8%
案内表示やアナウンス	1	0.3%
緊急時シグナル、警報装置	7	1.9%
歩行訓練、点字、手話等の講習会	8	2.2%
交通マナー、ルールの啓発、啓蒙	11	3.0%
障がい者対応マーク、点字	4	1.1%
福祉教育の充実	7	1.9%
ホームヘルパー、ガイドヘルパー	12	3.2%
手話通訳者、要約筆記者	1	0.3%
交通費の助成	25	6.7%
ボランティアの拡大	11	3.0%
車イス、補聴器、盲導犬その他の歩行補助具	16	4.3%
その他	2	0.5%
わからない	3	0.8%
無回答	18	4.9%
計	371	100.0%

問31 災害時に困りそうなことは

選択項目	人数	構成比
特に困ることはない	43	19.1%
救助を求めることができない又は、求めても来てくれる人がいない	13	5.8%
安全なところまで迅速に避難できない	42	18.7%
周囲の人とのコミュニケーションがとれない	20	8.9%
被害状況、避難場所、物資の収集等の情報が入手できない	22	9.8%
避難場所で十分に介助してくれる人がいない	14	6.2%
投薬や治療を受けることが困難	29	12.9%
補装具の使用が困難	8	3.6%
補装具や日常生活用具の入手が困難	8	3.6%
その他	6	2.7%
無回答	20	8.9%
計	225	100.0%

問32 障害者自立支援法について知っていますか。

選択項目	人数	構成比
知っている	46	31.9%
知らない	69	47.9%
聞いたこともない	5	3.5%
無回答	24	16.7%
計	144	100.0%

問33 (1) -ア 訪問系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	80	55.6%
知らない	49	34.0%
無回答	15	10.4%
計	144	100.0%

問33 (1) -イ 訪問系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	16	11.1%
今後利用したい	35	24.3%
利用したくない	11	7.6%
わからない	55	38.2%
無回答	27	18.8%
計	144	100.0%

問33 (2) -ア 日中活動系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	65	45.1%
知らない	62	43.1%
無回答	17	11.8%
計	144	100.0%

問33 (2) -イ 日中活動系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	11	7.6%
今後利用したい	31	21.5%
利用したくない	11	7.6%
わからない	53	36.8%
無回答	38	26.4%
計	144	100.0%

問33 (3) -ア 居住系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	68	47.2%
知らない	50	34.7%
無回答	26	18.1%
計	144	100.0%

問33 (3) -イ 居住系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	6	4.2%
今後利用したい	20	13.9%
利用したくない	17	11.8%
わからない	58	40.3%
無回答	43	29.9%
計	144	100.0%

問33 (4) -ア 玉村町障害者福祉センターのばら

選択項目	人数	構成比
知っている	71	49.3%
知らない	58	40.3%
無回答	15	10.4%
計	144	100.0%

問33 (4) -イ 玉村町障害者福祉センターのばら

選択項目	人数	構成比
利用している	3	2.1%
今後利用したい	13	9.0%
利用したくない	18	12.5%
わからない	74	51.4%
無回答	36	25.0%
計	144	100.0%

問33 (5) -ア 自立支援医療

選択項目	人数	構成比
知っている	34	23.6%
知らない	89	61.8%
無回答	21	14.6%
計	144	100.0%

問33 (5) -イ 自立支援医療

選択項目	人数	構成比
利用している	4	2.8%
今後利用したい	20	13.9%
利用したくない	8	5.6%
わからない	65	45.1%
無回答	47	32.6%
計	144	100.0%

問33 (6) -ア 補装具の交付・修理

選択項目	人数	構成比
知っている	79	54.9%
知らない	47	32.6%
無回答	18	12.5%
計	144	100.0%

問33(6) -イ 補装具の交付・修理

選択項目	人数	構成比
利用している	25	17.4%
今後利用したい	23	16.0%
利用したくない	8	5.6%
分からない	53	36.8%
無回答	35	24.3%
計	144	100.0%

問34(1) -ア 日常生活用具の給付

選択項目	人数	構成比
知っている	63	43.8%
知らない	68	47.2%
無回答	13	9.0%
計	144	100.0%

問34(1) -イ 日常生活用具の給付

選択項目	人数	構成比
利用している	12	8.3%
今後利用したい	26	18.1%
利用したくない	10	6.9%
分からない	63	43.8%
無回答	33	22.9%
計	144	100.0%

問34(2) -ア 移動支援事業

選択項目	人数	構成比
知っている	48	33.3%
知らない	78	54.2%
無回答	18	12.5%
計	144	100.0%

問34(2) -イ 移動支援事業

選択項目	人数	構成比
利用している	8	5.6%
今後利用したい	26	18.1%
利用したくない	8	5.6%
分からない	60	41.7%
無回答	42	29.2%
計	144	100.0%

問34(3) -ア 手話通訳の設置・派遣

選択項目	人数	構成比
知っている	27	18.8%
知らない	89	61.8%
無回答	28	19.4%
計	144	100.0%

問34(3) -イ 手話通訳の設置・派遣

選択項目	人数	構成比
利用している	1	0.7%
今後利用したい	7	4.9%
利用したくない	19	13.2%
分からない	64	44.4%
無回答	53	36.8%
計	144	100.0%

問34(4) -ア 地域活動支援センターたんぼぼ

選択項目	人数	構成比
知っている	34	23.6%
知らない	90	62.5%
無回答	20	13.9%
計	144	100.0%

問34(4) -イ 地域活動支援センターたんぼぼ

選択項目	人数	構成比
利用している	2	1.4%
今後利用したい	11	7.6%
利用したくない	17	11.8%
分からない	70	48.6%
無回答	44	30.6%
計	144	100.0%

問34(5) -ア 日中一時支援事業

選択項目	人数	構成比
知っている	36	25.0%
知らない	86	59.7%
無回答	22	15.3%
計	144	100.0%

問34(5) -イ 日中一時支援事業

選択項目	人数	構成比
利用している	6	4.2%
今後利用したい	23	16.0%
利用したくない	9	6.3%
分からない	64	44.4%
無回答	42	29.2%
計	144	100.0%

問34(6) -ア 自動車免許取得費の補助

選択項目	人数	構成比
知っている	34	23.6%
知らない	93	64.6%
無回答	17	11.8%
計	144	100.0%

問34(6) -イ 自動車免許取得費の補助

選択項目	人数	構成比
利用している	7	4.9%
今後利用したい	16	11.1%
利用したくない	22	15.3%
分からない	53	36.8%
無回答	46	31.9%
計	144	100.0%

問34(7) -ア 自動車改造費の助成

選択項目	人数	構成比
知っている	46	31.9%
知らない	82	56.9%
無回答	16	11.1%
計	144	100.0%

問34(7) -イ 自動車改造費の助成

選択項目	人数	構成比
利用している	7	4.9%
今後利用したい	24	16.7%
利用したくない	16	11.1%
分からない	55	38.2%
無回答	42	29.2%
計	144	100.0%

問35(1) -ア 福祉タクシー券の発行

選択項目	人数	構成比
知っている	43	29.9%
知らない	92	63.9%
無回答	9	6.3%
計	144	100.0%

問35(1) -イ 福祉タクシー券の発行

選択項目	人数	構成比
利用している	8	5.6%
今後利用したい	51	35.4%
利用したくない	9	6.3%
分からない	44	30.6%
無回答	32	22.2%
計	144	100.0%

問35(2) -ア 住宅改造費に対する補助

選択項目	人数	構成比
知っている	67	46.5%
知らない	65	45.1%
無回答	12	8.3%
計	144	100.0%

問35(2) -イ 住宅改造費に対する補助

選択項目	人数	構成比
利用している	12	8.3%
今後利用したい	54	37.5%
利用したくない	6	4.2%
分からない	40	27.8%
無回答	32	22.2%
計	144	100.0%

問35(3) -ア タクシー・バス・JR・航空運賃割引

選択項目	人数	構成比
知っている	106	73.6%
知らない	30	20.8%
無回答	8	5.6%
計	144	100.0%

問35(3) -イ タクシー・バス・JR・航空運賃割引

選択項目	人数	構成比
利用している	42	29.2%
今後利用したい	48	33.3%
利用したくない	4	2.8%
分からない	23	16.0%
無回答	27	18.8%
計	144	100.0%

問35(4) -ア 有料道路通行料の割引

選択項目	人数	構成比
知っている	103	71.5%
知らない	34	23.6%
無回答	7	4.9%
計	144	100.0%

問35(4) -イ 有料道路通行料の割引

選択項目	人数	構成比
利用している	52	36.1%
今後利用したい	38	26.4%
利用したくない	3	2.1%
分からない	25	17.4%
無回答	26	18.1%
計	144	100.0%

問35(5) -ア 自動車税・自動車取得税の減免

選択項目	人数	構成比
知っている	104	72.2%
知らない	23	16.0%
無回答	17	11.8%
計	144	100.0%

問35(5) -イ 自動車税・自動車取得税の減免

選択項目	人数	構成比
利用している	69	47.9%
今後利用したい	22	15.3%
利用したくない	2	1.4%
分からない	19	13.2%
無回答	32	22.2%
計	144	100.0%

問35(6) -ア 在宅重度障害児手当

選択項目	人数	構成比
知っている	32	22.2%
知らない	73	50.7%
無回答	39	27.1%
計	144	100.0%

問35(6) -イ 在宅重度障害児手当

選択項目	人数	構成比
利用している	4	2.8%
今後利用したい	3	2.1%
利用したくない	13	9.0%
分からない	54	37.5%
無回答	70	48.6%
計	144	100.0%

問35(7) -ア 障害児福祉手当・特別障害者手当て

選択項目	人数	構成比
知っている	51	35.4%
知らない	61	42.4%
無回答	32	22.2%
計	144	100.0%

問35(7) -イ 障害児福祉手当・特別障害者手当

選択項目	人数	構成比
利用している	13	9.0%
今後利用したい	13	9.0%
利用したくない	9	6.3%
分からない	48	33.3%
無回答	61	42.4%
計	144	100.0%

問35(8) -ア 公共施設等の利用料金の減免

選択項目	人数	構成比
知っている	71	49.3%
知らない	57	39.6%
無回答	16	11.1%
計	144	100.0%

問35(8) -イ 公共施設等の利用料金の減免

選択項目	人数	構成比
利用している	27	18.8%
今後利用したい	46	31.9%
利用したくない	10	6.9%
分からない	24	16.7%
無回答	37	25.7%
計	144	100.0%

問35(9) -ア 身体障害者連合会

選択項目	人数	構成比
知っている	50	34.7%
知らない	88	61.1%
無回答	6	4.2%
計	144	100.0%

問35(9) -イ 身体障害者連合会

選択項目	人数	構成比
利用している	15	10.4%
今後利用したい	10	6.9%
利用したくない	12	8.3%
分からない	60	41.7%
無回答	47	32.6%
計	144	100.0%

問36 日常生活の中で必要な介助はありますか

選択項目	人数	構成比
食事	15	6.8%
トイレ	15	6.8%
入浴	24	11.0%
洗面	12	5.5%
着替え	16	7.3%
家の中の移動	6	2.7%
外出	27	12.3%
お金の管理	8	3.7%
特になし	74	33.8%
その他	3	1.4%
無回答	19	8.7%
計	219	100.0%

問37 現在の主な介助者はどなたですか

選択項目	人数	構成比
父、母	14	9.7%
妻または夫	52	36.1%
子ども、子どもの嫁または婿	10	6.9%
祖父母	0	0.0%
兄弟、姉妹	2	1.4%
その他の家族、親戚	0	0.0%
友だち、仲間	0	0.0%
ホームヘルパー	5	3.5%
ボランティア	0	0.0%
誰もいない	5	3.5%
介助の必要がない	32	22.2%
その他	5	3.5%
無回答	19	13.2%
計	144	100.0%

問38 介助者に対して困っていることはありますか

選択項目	人数	構成比
介助者が介助の方法が分からない	0	0.0%
交代できる介助者がいない	11	7.6%
介護者の精神的、肉体的負担が大きい	17	11.8%
介護者の経済的負担が大きい	10	6.9%
特になし	59	41.0%
その他	4	2.8%
無回答	43	29.9%
計	144	100.0%

問39 現在行っているスポーツ、文化活動等の社会活動を行ったことがありますか

選択項目	人数	構成比
現在行っている	19	13.2%
現在は行っていないが過去に行ったことがある	25	17.4%
行ったことはないが興味はある	42	29.2%
行ったことはないし興味もない	36	25.0%
無回答	22	15.3%
計	144	100.0%

問40 障がいを持つ方の福祉団体に加入していますか

選択項目	人数	構成比
加入している	19	13.2%
加入していない	112	77.8%
無回答	13	9.0%
計	144	100.0%

問4 1 社会活動を行う際に不便なこと、妨げになることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に不便や妨げは感じない	29	12.3%
障がいのある人が利用しやすい施設、整備が整っていない	20	8.5%
どのような活動が行われているのかわからない	47	20.0%
気軽に参加できるものが少ない	16	6.8%
同行の友人、仲間がいない	15	6.4%
費用や手間がかかる	10	4.3%
家庭の事情がある	15	6.4%
健康や体力に自信がない	57	24.3%
参加したくなるようなものがない	6	2.6%
過去に参加したが期待はずれだった	1	0.4%
その他	1	0.4%
無回答	18	7.7%
計	235	100.0%

問4 2 興味のある、又は参加したいと思う社会活動はありますか

選択項目	人数	構成比
文化的趣味	23	12.3%
健康、スポーツ	20	10.7%
生産、就業	11	5.9%
教育、文化	18	9.6%
生活環境の改善	7	3.7%
安全管理	5	2.7%
福祉活動	2	1.1%
地域行事	9	4.8%
特になし	57	30.5%
その他	3	1.6%
無回答	32	17.1%
計	187	100.0%

問4 3 生活の楽しみは何ですか

選択項目	人数	構成比
テレビ、ラジオ、新聞等	99	36.9%
趣味、娯楽	37	13.8%
友人、知人などとのつきあい	30	11.2%
家族との団らん	38	14.2%
旅行	16	6.0%
仕事、家事	8	3.0%
団体やサークル活動	2	0.7%
スポーツや体操など	3	1.1%
知識や教養を高める活動	5	1.9%
ボランティアやその他地域活動	4	1.5%
特になし	7	2.6%
その他	6	2.2%
無回答	13	4.9%
計	268	100.0%

問4 4 生活に際して知りたい情報はありますか

選択項目	人数	構成比
公共施設、公園、行楽地等の設備の状況	19	8.3%
町内会や地域活動などの活動内容	8	3.5%
催し物や講座、教室などの開催状況	13	5.7%
障がい者の仕事を紹介するところやその内容	16	7.0%
福祉施設の内容や受けられるサービス	27	11.8%
生活や医療などの相談窓口	16	7.0%
援助や補助などの福祉の制度	28	12.2%
病院の内容や状況	20	8.7%
日常生活を助けてくれるホームヘルパーやボランティアの内容	15	6.6%
特になし	37	16.2%
その他	1	0.4%
無回答	29	12.7%
計	229	100.0%

問4 5 生活の情報をふだんどこから得ていますか

選択項目	人数	構成比
役場の窓口	10	4.1%
町の広報誌「広報たまむら」	74	30.6%
インターネット（町のホームページ等）	5	2.1%
町以外の公共機関の窓口	1	0.4%
テレビ、ラジオ、新聞	83	34.3%
民生委員の訪問	2	0.8%
保健師、ホームヘルパーの訪問	9	3.7%
福祉団体（患者・保護者会など）	3	1.2%
ボランティア	1	0.4%
社会福祉関連施設	4	1.7%
病院などの医療機関	30	12.4%
その他	2	0.8%
無回答	18	7.4%
計	242	100.0%

問4 6 情報に対する満足度はどれくらいですか

選択項目	人数	構成比
満足している	10	6.9%
かなり満足している	4	2.8%
まあまあである	84	58.3%
少し不満を感じる	8	5.6%
極めて不満である	8	5.6%
無回答	30	20.8%
計	144	100.0%

問4 7 問い合わせしやすい、あるいは便利な機関、窓口はどこですか

選択項目	人数	構成比
役場	87	42.6%
社会福祉協議会	15	7.4%
民生委員	8	3.9%
保健福祉事務所	10	4.9%
利用中の障がい者福祉施設	11	5.4%
医療機関	32	15.7%
障害者相談員	6	2.9%
その他	8	3.9%
無回答	27	13.2%
計	204	100.0%

問48 障がい者に対する一般住民の理解は、どの程度だと思われませんか

選択項目	人数	構成比
理解されている	9	6.3%
少しは理解されている	40	27.8%
あまり理解されていない	32	22.2%
理解されていない	15	10.4%
どちらともいえない	25	17.4%
無回答	23	16.0%
計	144	100.0%

問49 障がい者に対する町民の理解を浸透させるためにはどうしたらよいと思いますか

選択項目	人数	構成比
スポーツ、レクリエーション、文化活動など地域の人々との交流	39	17.1%
町民や企業を対象とした講演会や研修会の実施	28	12.3%
ボランティアの育成	18	7.9%
障がい者自身が積極的に町にでる	33	14.5%
学校での障がいに関する教育	32	14.0%
「福祉週間」や「障害者の日」などのPR	30	13.2%
その他	7	3.1%
無回答	41	18.0%
計	228	100.0%

問50 近所付き合いの状況はどうですか

選択項目	人数	構成比
会ったときにはあいさつをする	72	50.0%
世間話をする	27	18.8%
一緒に遊ぶ	3	2.1%
町内会などの地域の活動を一緒にする	12	8.3%
趣味やスポーツを一緒にする	2	1.4%
ほとんど付き合いはない	11	7.6%
その他	2	1.4%
無回答	15	10.4%
計	144	100.0%

問51 ボランティア活動について知っていますか

選択項目	人数	構成比
直接協力を受けている	3	2.1%
周りでは活動があることを知っている	30	20.8%
聞いたことはある	42	29.2%
ほとんど知らない	42	29.2%
その他	2	1.4%
無回答	25	17.4%
計	144	100.0%

問52 ボランティアが必要なときはどのようなときですか

選択項目	人数	構成比
外出の時の付き添い	26	13.3%
買い物の手伝い	21	10.8%
レクリエーションなどの付き添い	4	2.1%
料理、洗濯、掃除の手伝い	18	9.2%
育児の手伝い	1	0.5%
入浴の介助	7	3.6%
家や庭の手入れ	25	12.8%
手話通訳、要約筆記など	2	1.0%
必要ない	53	27.2%
その他	6	3.1%
無回答	32	16.4%
計	195	100.0%

問53 玉村町の障がい者（児）福祉に関することでご意見がありましたら、ご自由にお書きください

意見等
・ 障害に対する意識を変えていくために講演や学校教育の中に組み込むなどしていただきたいと思います。障害者自ら行動を起こすことも大切だと感じます。「障害をもっていても同じ人間」だということを皆さんに伝えるチャンスだと思います。このアンケートの結果を見た人が一人でも意識が変わったら嬉しく思います。
・ 玉村町にかぎったことではないですが、小冊子みたいなものを発行するべきだと思う。障害者の方から減免等を見つけて言われないとダメな現状は国の障害への理解のなさを表していると思います。
・ 移動支援の充実・宿泊許可・外出先からの移動支援・移動支援事業は、市町村単独事業になったのに、地域格差が有っては、この事業は変わりません。障害者の就労できる場の提供役場の掃除など、障害をもった方たちへ、働く喜びを与えるべきだ。
・ 等級3級ですが現時点では、私は日常生活に不自由していません。ほんとに困っている障害者に手をさしのべて上げていただきたいです。
・ 玉村町の障害者福祉サービスの状況のその都度最新の情報が欲しい。
・ アンケートに答えるのに代読・代筆が必要なので点字で作成してほしい。入院時のヘルパーの利用の拡大。代読・代筆・点訳の文字もないのはおかしい。
・ 昨今福祉に対する援助が形を変えて減ってきています。どうか地方自治の一環として厚く援助を続けてほしいと願っています。
・ 母親が障害者になって、3年ほどたちました。ヘルパーさん、ディサービス、役場の担当者の方にお世話になり特に問題なく毎日過ごしております。今後ともよろしく願いいたします。
・ 私は、主人と二人暮らしで外食がたのしみでよく出かけますが、どの店も通路や車椅子トイレがなく不便に思っております。せめて障害用に通路を広くとってもらって段差もスロープにしてもらえればいろいろな店にたべにいけると思いました。
・ 今まで、健康であったのですが18年度に病気で頸椎が悪くなり手術を受けました。障害者となってしまいました。色々不自由を感じていますが、負けずに頑張ってます。
・ 職場での理解がまったくない。

<p>・私は、ボランティア活動を通して玉村町の方々とお付き合いをさせて頂いておりますが、玉村町は、とてもよい町だと思います。今後もっと良くなると信じています。そのためにボランティア活動をしています。今は元気な方でもいつ自分が障害を持つ立場になるかわかりません。他人ごとではありません。そんなことを言う私も元気なときは障害者のことは、全く他人のことと思っていました。</p>
<p>・障害者の泊まれる施設があればと思います。</p>
<p>・障害者（軽度）の者に対しては、情報が入ってこない。役場保健センターの入口は障害者に対応していない。役場の椅子マークより福祉課までが遠く感じるので、入口を別途考えてほしい。</p>
<p>・障害者のいろいろな相談などに総合的に対応してもらえらる相談窓口を作ってほしい。</p>
<p>・障害者またはその家族が、自由に立ち寄り情報交換できるのがほしい。</p>
<p>・このような機会に計画の目的目標などの情報発信をしてほしい。アンケートも情報収集の有効な方法ではあるが福祉現場に従事する人、福祉施設を利用する人福祉サービスを受けている人等の意見、感想をくみ上げて計画を策定してほしい。</p>
<p>・弱者の立場を対話で理解「共生・共存」この町に住んで良かったと皆が言い合える町づくりを更に期待しております。</p>
<p>・障がい者手帳を受けている人間としてこの制度が変わりなく続く事を切望いたします。</p>
<p>・後期高齢者医療と障害者のサービスの境界線がわからないのでおそらくもっと利用できたり受給されたり減免になったりといろんなことが受けられたとしても門戸が開かれていない。特に社会福祉協議会関連の内容は、わかりにくい。</p>
<p>・障がい者は、生活が苦しいです。</p>
<p>・障害者を特別な目で見ないでいただきたい。周りの方の暖かなお気持ちで見守って、助けての声にはそっと手をさしのべてください。なるべくお世話をかけないように生きてまいりたいと存じます。</p>
<p>・現在まだ自由に家事外出も出ています。これから先足の痛みも強まり、動くのが大変になったときどうしようか眠れないよも時々です。若い方達も今を精一杯生きている様です。このような世の中なるべく世話にならないよう我慢する老人が多くなることと思います。</p>
<p>・年金受給が早かったため障害年金が受けられない。1ヶ月3.5万円ほどの年金では、まともな生活を送れないので、改善してほしい。</p>
<p>・玉村町に住んで10数年この年になってこのような疾病のため役場健康福祉課に大変お世話になり、有難く感謝しております。</p>
<p>・大手術をしてもリハビリのない病院では、起き上がりも出来ないのに 回復を待たずに退院させられました。退院して一ヶ月大変なときに認定が受けられず、介護保険が使えませんでした。</p>
<p>・自分の場合24年間、病と戦い精一杯生きてきました。障害者として福祉に援助して、面倒見ていただきました。自分以上の障害のある人たちにこれからも満足の出来る福祉に期待しています。</p>
<p>・腎不全と目が特に悪いので外出は全部夫と一緒にです。夫がいなくなったらと不安です。</p>
<p>・他町村よりは、良いと思います。</p>
<p>・自分が障害者であること身内以外知らせておりません。いつかは話す時がくると思います。内職は、時給1,000円程度です。どこかいく所があればと思います。</p>
<p>・障害者に対して、一般住民として手をさしのべようと思うが、ちゅうちょしてしまうことが多い。</p>

<p>・これからも夫を見守って下さいよろしくお願いいたします。私も夫の介護頑張っています。玉村町役場健康福祉課の皆様お世話になっております。健康に気をつけて頑張ってください。</p>
<p>・一生懸命に私達の為になるような事を行って下さる事を期待します。</p>
<p>・制度について、問われた事だけに答えるのではなく+すると得になる情報があれば教えて欲しい。</p>
<p>・町の福祉計画に反映させると言うことで大変評価を致しております。私は、脳卒中を3回やっていますが現在四肢に後遺症がなく身の回りは自分で何でも出来ますが、車の運転は視野狭窄でドクターストップで出来ません。従って外出はすべて自転車です。今のところ特に問題はないと書きましたが、本町通りは狭くて自動車の通行量も多く自転車では走れないので左右とも歩道走らざるを得ませんので必要最小限に使っています。自転車が不可の時タクシーを使っています。高齢のため何時どうなるかわかりませんので心配です。補聴器を使っているので、余り外出しません。</p>
<p>・町民の皆さんが安心して毎日が送れる事が一番幸いです。私共年を重ねていくばかりです。今後ともよろしく願います。</p>
<p>・もう少し福祉に関する、内容等のパンフレットやPR活動が多数あるといいと思うし金額面の補助があるといい。</p>
<p>・今は、なんと言っても体を直したい。左半身回復に通院先でのアドバイスがほしい。</p>
<p>・町の身体障害者連合会の会員も高齢になり会員はだんだん少なくなりましたが新しく入会はどのように勤めたらよいでしょうか。</p>
<p>・日常生活用具の給付補助を現在どおりにしていただきたいと思っています。</p>
<p>・地区民生委員のきめ細やかな連絡がほしい。</p>
<p>・現在入院中であり、近日中リハビリ専門の病院へ移る予定です。退院したら相談にのって頂きたいと思います。</p>
<p>・障害者の介護を1人で見ている場合介護者に緊急な用事や体調不良が現れた場合障害者の替わりには、ショート等、受け入れ態勢がないのが非常に困る。</p>

※アンケートの意見については、回答者の意向を損なわないよう、回答していただいた内容をそのまま掲載させていただきました。

玉村町障害者福祉計画アンケート調査結果（知的障がい者・児）

アンケート郵送数50通

回収数・・・36通

回収率・・・72%

ご記入くださるのはどなたですか。

選択項目	人数	構成比
本人	2	5.6%
父親・母親	29	80.6%
配偶者	1	2.8%
その他	3	8.3%
無回答	1	2.8%
計	36	100.0%

問1 年齢は何歳ですか

選択項目	人数	構成比
0歳～6歳	2	5.6%
7歳～17歳	9	25.0%
18歳～39歳	19	52.8%
40歳～64歳	2	5.6%
65歳～	4	11.1%
無回答	0	0.0%
計	36	100.0%

問2 性別は

選択項目	人数	構成比
男	18	50.0%
女	18	50.0%
無回答	0	0.0%
計	36	100.0%

問3 療育手帳の等級

選択項目	人数	構成比
A1	9	25.0%
A2	2	5.6%
A3	0	0.0%
B1	4	11.1%
B2	2	5.6%
A重	10	27.8%
A中	0	0.0%
B中	5	13.9%
B軽	3	8.3%
無回答	1	2.8%
計	36	100.0%

問4 障がいの主な原因は

選択項目	人数	構成比
疾病	0	0.0%
妊娠・出産時の損傷	6	16.7%
先天性	15	41.7%
その他の事故・災害	0	0.0%
その他	3	8.3%
不明	11	30.6%
無回答	1	2.8%
計	36	100.0%

問5 障害者年金を受給していますか

選択項目	人数	構成比
1級	13	36.1%
2級	3	8.3%
3級	1	2.8%
その他	1	2.8%
受給していない	14	38.9%
無回答	4	11.1%
計	36	100.0%

問6 一緒に暮らしているのは何人

選択項目	人数	構成比
1人	0	0.0%
2人	5	13.9%
3人	8	22.2%
4人	14	38.9%
5人	6	16.7%
6人以上	3	8.3%
無回答	0	0.0%
計	36	100.0%

問7 どなたと一緒に暮らしていますか

選択項目	人数	構成比
親	31	52.5%
配偶者	0	0.0%
兄弟姉妹	19	32.2%
子供	1	1.7%
孫	2	3.4%
祖父母	3	5.1%
一人暮らし	3	5.1%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	59	100.0%

問8 世帯の生計の中心者は

選択項目	人数	構成比
本人	0	0.0%
配偶者	0	0.0%
親	32	88.9%
祖父母	0	0.0%
子供	0	0.0%
兄弟姉妹	3	8.3%
その他	1	2.8%
無回答	0	0.0%
計	36	100.0%

問9 世帯の主な収入は

選択項目	人数	構成比
自営業収入	2	5.6%
勤労収入（正社員）	18	50.0%
勤労収入（臨時、パート）	3	8.3%
障害年金	1	2.8%
年金（障害年金除く）、恩給	9	25.0%
手当（特別障害者手当など）	0	0.0%
生活保護	0	0.0%
仕送り	0	0.0%
財産収入（家賃、地代、利子等）	0	0.0%
その他	1	2.8%
無回答	2	5.6%
計	36	100.0%

問10 住居の状況はどうなっていますか

選択項目	人数	構成比
持ち家	31	86.1%
町営住宅	1	2.8%
社宅、官舎、療	1	2.8%
一戸建民間借家	0	0.0%
アパート、賃貸マンション	0	0.0%
間借り	1	2.8%
その他	0	0.0%
無回答	2	5.6%
計	36	100.0%

問11 住宅で困っていることは

選択項目	人数	構成比
現在のままでよい	25	61.0%
転居したいが障がい者に配慮した住宅がない	0	0.0%
立ち退きを求められている	0	0.0%
玄関や廊下が狭く移動が難しい、緊急時の避難が心配	4	9.8%
階段や段差に苦勞する	0	0.0%
風呂やトイレが使いづらい	1	2.4%
住宅改造したいが改造内容など相談するところがない	1	2.4%
住宅改造したいが資金がない、または借りられない	2	4.9%
家賃やローンの負担が大きい	4	9.8%
その他	0	0.0%
無回答	4	9.8%
計	41	100.0%

問12 食事の支度はどのようにしていますか

選択項目	人数	構成比
自分でする	2	5.0%
家族（親族）がしてくれる	33	82.5%
近所の人ができる	0	0.0%
外食している	1	2.5%
出来合を買ってくる	1	2.5%
出前、配食サービス	0	0.0%
その他	1	2.5%
無回答	2	5.0%
計	40	100.0%

問13 食事の支度を他の人に頼むとするとそれはどなたですか

選択項目	人数	構成比
家族、親族	27	67.5%
近所の人	0	0.0%
ホームヘルパー、ボランティア	5	12.5%
配食サービス	1	2.5%
頼まない	2	5.0%
その他	1	2.5%
無回答	4	10.0%
計	40	100.0%

問14 本人が未就学の人は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
保育所	1	2.8%
幼稚園	1	2.8%
通園施設	2	5.6%
自宅	1	2.8%
その他	1	2.8%
無回答	30	83.3%
計	36	100.0%

問15 本人が義務教育期間の人は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
小、中学校の普通学級	0	0.0%
小、中学校の特殊学級	5	13.9%
小、中の養護学校、盲学校、ろう学校	4	11.1%
自宅訪問教育	0	0.0%
その他	2	5.6%
無回答	25	69.4%
計	36	100.0%

問16 本人が義務教育期間を過ぎた人は、どう過ごしていますか

選択項目	人数	構成比
何らかの教育を受けている	1	2.8%
収入が得られる仕事に就いている	6	16.7%
通所の福祉サービスを利用	12	33.3%
施設入所	3	8.3%
在宅	1	2.8%
その他	1	2.8%
無回答	12	33.3%
計	36	100.0%

問17 問16で、①を選んだ方はどのようにして教育を受けていますか

選択項目	人数	構成比
高校に通う	0	0.0%
養護学校、盲学校、ろう学校の高等部	0	0.0%
大学・短大・専修学校に通う	0	0.0%
職業訓練校に通う	0	0.0%
通信教育を受ける	0	0.0%
無回答	1	100.0%
計	1	100.0%

問18-1 問16で、②を選んだ方は伺います（仕事の状況）

選択項目	人数	構成比
自営業	0	0.0%
家の仕事（家事）の手伝い	0	0.0%
勤め（正社員、正職員）	0	0.0%
勤め（臨時、パート等）	5	83.3%
内職	0	0.0%
福祉施設等での就労	1	16.7%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	6	100.0%

問18-2 問16で、②を選んだ方は伺います（仕事の内容）

選択項目	人数	構成比
農林業	0	0.0%
鉱業	0	0.0%
建設業	0	0.0%
製造業（印刷含む）	2	33.3%
電気、ガス、水道業	0	0.0%
運輸、通信業	0	0.0%
卸売、小売業、飲食業	0	0.0%
金融、保険業	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
あんま、マッサージ、はり、きゅう	0	0.0%
清掃業、クリーニング業	0	0.0%
パソコン、ソフトウェア関連	0	0.0%
その他のサービス業	0	0.0%
事務	0	0.0%
その他	4	66.7%
無回答	0	0.0%
計	6	100.0%

問19 職場や学校で困っていることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に困っていることはない	10	25.0%
仕事または学校が自分に向いていない	0	0.0%
障がいに対して職場や学校での理解が足りない	4	10.0%
トイレなど職場や学校の設備が障がい者に配慮されていない	1	2.5%
通勤、通学が大変	3	7.5%
賃金が低い、授業料が高い	2	5.0%
労働時間、授業時間が長い	0	0.0%
その他	2	5.0%
無回答	18	45.0%
計	40	100.0%

問20 仕事をしていない方は、その主な理由

選択項目	人数	構成比
重い障がいのため	10	27.8%
病気のため	1	2.8%
高齢のため	0	0.0%
家事をしているため	0	0.0%
自分にあった仕事がないため	0	0.0%
理解のある職場がないため	1	2.8%
通勤が難しいため	0	0.0%
就業をしたいが相談するところがない	0	0.0%
その他	1	2.8%
無回答	23	63.9%
計	36	100.0%

問21 障がい者の教育の場についてどう思いますか

選択項目	人数	構成比
地域の学校で学ぶのが良い	13	25.5%
養護学校などで学ぶのが良い	14	27.5%
在宅で学ぶのが良い	0	0.0%
理解のある学校がない	3	5.9%
通学が難しい	1	2.0%
就学・進学したいが相談するところがない	3	5.9%
その他	1	2.0%
無回答	16	31.4%
計	51	100.0%

問22 障がい者の就労の場についてどのように考えられますか

選択項目	人数	構成比
一般企業などで雇用を望む	4	11.1%
障がい者の雇用は難しい点があり福祉的就労を望む	19	52.8%
障がい者が就労するのは無理だと思う	2	5.6%
自営業を営みたい	1	2.8%
その他	1	2.8%
無回答	9	25.0%
計	36	100.0%

問23 生活行動の状態は

選択項目	人数	構成比
一人で自由に行動できる	2	5.6%
町内程度なら一人で外出できる	1	2.8%
自宅周辺なら一人で外出できる	4	11.1%
誰かと一緒なら外出できる	27	75.0%
家から出られない	1	2.8%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.8%
計	36	100.0%

問24 外出するときの主な交通手段は

選択項目	人数	構成比
自家用車（自分で運転）	0	0.0%
自家用車（家族等が運転）	26	72.2%
バス	0	0.0%
電車	0	0.0%
タクシー	0	0.0%
原付自転車、バイク	0	0.0%
利用しない（徒歩、自転車等）	4	11.1%
車いす	1	2.8%
その他	1	2.8%
無回答	4	11.1%
計	36	100.0%

問25 外出の日数はどれくらいですか

選択項目	人数	構成比
ほとんど毎日	24	66.7%
週に3～4日	1	2.8%
週に1～2日	4	11.1%
月に2～3日	0	0.0%
年に数回	1	2.8%
外出しない	0	0.0%
無回答	6	16.7%
計	36	100.0%

問26 外出の主な目的は

選択項目	人数	構成比
仕事、学校（通勤、通学）	12	18.8%
施設に通うため（通所）	13	20.3%
治療、リハビリ（通院）	5	7.8%
買い物	13	20.3%
レクリエーション	3	4.7%
散歩	10	15.6%
地域の行事	0	0.0%
旅行	2	3.1%
その他	0	0.0%
無回答	6	9.4%
計	64	100.0%

問27 外出する時に困ることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に困っていない	16	37.2%
入り口や施設の中に階段や段差が多い	4	9.3%
入り口や道路が狭い	3	7.0%
車いす用のトイレがない	4	9.3%
点字表示、音声案内を含め、案内表示が少ない	0	0.0%
エレベーターが少ない	1	2.3%
滑り止めのある床が少ない	1	2.3%
施設の駐車場が少ない	1	2.3%
手話のできる人が少ない	0	0.0%
その他	2	4.7%
無回答	11	25.6%
計	43	100.0%

問28 あなたが現在町内で不便を感じている施設は

選択項目	人数	構成比
特にない	14	35.0%
役場	1	2.5%
役場を除く官公署	0	0.0%
銀行、郵便局	1	2.5%
スーパー、コンビニ、レストラン	1	2.5%
病院	9	22.5%
文化センター	0	0.0%
図書館	1	2.5%
社会体育館	0	0.0%
老人福祉センター	0	0.0%
学校	1	2.5%
障害者福祉センター	0	0.0%
その他	2	5.0%
無回答	10	25.0%
計	40	100.0%

問29 障がい者が外出する時に必要なことは何だと思いますか

選択項目	人数	構成比
特に必要ない	1	1.0%
バスなどの公共交通機関の充実	13	12.4%
福祉タクシー等の充実	12	11.4%
建物の段差の解消やエレベータの設置	6	5.7%
歩道の拡幅や段差の解消	7	6.7%
視覚障がい者のための音声誘導信号機の充実	2	1.9%
点字ブロックの充実	1	1.0%
建物や公園の障がい者対応トイレの設置	9	8.6%
施設、道路ガイドマップ	0	0.0%
音声増幅付き公衆電話	1	1.0%
ファックス付き公衆電話	0	0.0%
案内表示やアナウンス	0	0.0%
緊急時シグナル、警報装置	1	1.0%
歩行訓練、点字、手話等の講習会	0	0.0%
交通マナー、ルールの啓発、啓蒙	7	6.7%
障がい者対応マーク、点字	0	0.0%
福祉教育の充実	16	15.2%
ホームヘルパー、ガイドヘルパー	7	6.7%
手話通訳者、要約筆記者	1	1.0%
交通費の助成	2	1.9%
ボランティアの拡大	10	9.5%
車イス、補聴器、盲導犬その他の歩行補助具	0	0.0%
その他	2	1.9%
わからない	2	1.9%
無回答	5	4.8%
計	105	100.0%

問30 災害時に困りそうなことは

選択項目	人数	構成比
特に困ることはない	3	4.4%
救助を求めることができない又は、求めても来てくれる人がいない	9	13.2%
安全なところまで迅速に避難できない	11	16.2%
周囲の人とのコミュニケーションがとれない	19	27.9%
被害状況、避難場所、物資の支給等の情報が入手できない	6	8.8%
避難場所で十分に介助してくれる人がいない	6	8.8%
投薬や治療を受けることが困難	5	7.4%
補装具の使用が困難	0	0.0%
日常生活用具の入手が困難	1	1.5%
その他	1	1.5%
無回答	7	10.3%
計	68	100.0%

問31 障害者自立支援法について

選択項目	人数	構成比
知っている	28	77.8%
知らない	4	11.1%
聞いたこともない	1	2.8%
無回答	3	8.3%
計	36	100.0%

問32 (1) -ア 訪問系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	26	72.2%
知らない	5	13.9%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問32 (1) -イ 訪問系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	7	19.4%
今後利用したい	7	19.4%
利用したくない	1	2.8%
分からない	11	30.6%
無回答	10	27.8%
計	36	100.0%

問32 (2) -ア 日中活動系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	25	69.4%
知らない	6	16.7%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問32 (2) -イ 日中活動系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	14	38.9%
今後利用したい	7	19.4%
利用したくない	1	2.8%
分からない	7	19.4%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問32 (3) -ア 居住系サービス

選択項目	人数	構成比
知っている	25	69.4%
知らない	6	16.7%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問32 (3) -イ 居住系サービス

選択項目	人数	構成比
利用している	1	2.8%
今後利用したい	15	41.7%
利用したくない	3	8.3%
分からない	8	22.2%
無回答	9	25.0%
計	36	100.0%

問32 (4) -ア 玉村町障害者福祉センターのばら

選択項目	人数	構成比
知っている	25	69.4%
知らない	8	22.2%
無回答	3	8.3%
計	36	100.0%

問32 (4) -イ 玉村町障害者福祉センターのばら

選択項目	人数	構成比
利用している	10	27.8%
今後利用したい	8	22.2%
利用したくない	0	0.0%
分からない	10	27.8%
無回答	8	22.2%
計	36	100.0%

問33 (1) -ア 移動支援事業

選択項目	人数	構成比
知っている	19	52.8%
知らない	10	27.8%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問33 (1) -イ 移動支援事業

選択項目	人数	構成比
利用している	7	19.4%
今後利用したい	11	30.6%
利用したくない	0	0.0%
分からない	8	22.2%
無回答	10	27.8%
計	36	100.0%

問33 (2) -ア 地域活動支援センターたんぼぼ

選択項目	人数	構成比
知っている	22	61.1%
知らない	9	25.0%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問33(2)-イ 地域活動支援センターたんぼぼ

選択項目	人数	構成比
利用している	5	13.9%
今後利用したい	11	30.6%
利用したくない	0	0.0%
分からない	14	38.9%
無回答	6	16.7%
計	36	100.0%

問33(3)-ア 日中一時支援事業

選択項目	人数	構成比
知っている	19	52.8%
知らない	11	30.6%
無回答	6	16.7%
計	36	100.0%

問33(3)-イ 日中一時支援事業

選択項目	人数	構成比
利用している	7	19.4%
今後利用したい	11	30.6%
利用したくない	1	2.8%
分からない	12	33.3%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問34(1)-ア タクシー・バス・JR・航空運賃割引

選択項目	人数	構成比
知っている	28	77.8%
知らない	5	13.9%
無回答	3	8.3%
計	36	100.0%

問34(1)-イ タクシー・バス・JR・航空運賃割引

選択項目	人数	構成比
利用している	13	36.1%
今後利用したい	13	36.1%
利用したくない	0	0.0%
分からない	2	5.6%
無回答	8	22.2%
計	36	100.0%

問34(2)-ア 有料道路交通料の割引

選択項目	人数	構成比
知っている	27	75.0%
知らない	5	13.9%
無回答	4	11.1%
計	36	100.0%

問34(2)-イ 有料道路交通料の割引

選択項目	人数	構成比
利用している	17	47.2%
今後利用したい	9	25.0%
利用したくない	0	0.0%
分からない	3	8.3%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問34(3)-ア 自動車税・自動車取得税の減免

選択項目	人数	構成比
知っている	24	66.7%
知らない	6	16.7%
無回答	6	16.7%
計	36	100.0%

問34(3)-イ 自動車税・自動車取得税の減免

選択項目	人数	構成比
利用している	17	47.2%
今後利用したい	6	16.7%
利用したくない	1	2.8%
分からない	5	13.9%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問34(4)-ア 在宅重度障害児手当

選択項目	人数	構成比
知っている	20	55.6%
知らない	8	22.2%
無回答	8	22.2%
計	36	100.0%

問34(4)-イ 在宅重度障害児手当

選択項目	人数	構成比
利用している	9	25.0%
今後利用したい	2	5.6%
利用したくない	2	5.6%
分からない	5	13.9%
無回答	18	50.0%
計	36	100.0%

問34(5)-ア 障害児福祉手当・特別障害者手当

選択項目	人数	構成比
知っている	25	69.4%
知らない	2	5.6%
無回答	9	25.0%
計	36	100.0%

問34(5)-イ 障害児福祉手当・特別障害者手当

選択項目	人数	構成比
利用している	16	44.4%
今後利用したい	1	2.8%
利用したくない	0	0.0%
分からない	3	8.3%
無回答	16	44.4%
計	36	100.0%

問34(6)-ア 公共施設等の利用料の免除

選択項目	人数	構成比
知っている	25	69.4%
知らない	6	16.7%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問34 (6) -イ 公共施設等の利用料の免除

選択項目	人数	構成比
利用している	16	44.4%
今後利用したい	8	22.2%
利用したくない	0	0.0%
分からない	1	2.8%
無回答	11	30.6%
計	36	100.0%

問35 日常生活の中で必要な介助はありますか

選択項目	人数	構成比
食事	7	6.9%
トイレ	10	9.9%
入浴	16	15.8%
洗面	12	11.9%
着替え	9	8.9%
家の中の移動	1	1.0%
外出	21	20.8%
お金の管理	15	14.9%
特にない	5	5.0%
その他	1	1.0%
無回答	4	4.0%
計	101	100.0%

問36 現在の主な介助者はどなたですか

選択項目	人数	構成比
父、母	29	80.6%
妻または夫	0	0.0%
子ども、子どもの嫁または婿	1	2.8%
祖父母	0	0.0%
兄弟、姉妹	2	5.6%
その他の家族、親戚	0	0.0%
友達、仲間	0	0.0%
ホームヘルパー	0	0.0%
ボランティア	0	0.0%
誰もいない	0	0.0%
介助の必要がない	1	2.8%
その他	1	2.8%
無回答	2	5.6%
計	36	100.0%

問37 介助者に対して困っていることはありますか

選択項目	人数	構成比
介助者が介助の方法が分からない	0	0.0%
交代できる介助者がいない	8	22.2%
介護者の精神的、肉体的負担が大きい	4	11.1%
介護者の経済的負担が大きい	2	5.6%
特にない	13	36.1%
その他	0	0.0%
無回答	9	25.0%
計	36	100.0%

問38 スポーツ、文化活動等の社会活動を行ったことがありますか

選択項目	人数	構成比
現在行っている	4	11.1%
現在行っていないが過去に行ったことがある	5	13.9%
行ったことはないが興味はある	14	38.9%
行ったことはないし興味もない	6	16.7%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問39 障がいを持つ方の福祉団体に加入していますか

選択項目	人数	構成比
加入している	16	44.4%
加入していない	16	44.4%
無回答	4	11.1%
計	36	100.0%

問40 社会活動を行う際に不便なこと、妨げになることはありますか

選択項目	人数	構成比
特に不便や妨げは感じない	4	6.7%
障がいのある人が利用しやすい施設、整備が整っていない	7	11.7%
どのような活動が行われているのか知らない	15	25.0%
気軽に参加できるものが少ない	12	20.0%
同行の友人、仲間がいない	5	8.3%
費用や手間がかかる	1	1.7%
家庭の事情がある	4	6.7%
健康や体力に自信がない	2	3.3%
参加したくなるようなものがない	3	5.0%
過去に参加したが期待はずれだった	0	0.0%
その他	2	3.3%
無回答	5	8.3%
計	60	100.0%

問41 興味のある、又は参加したいと思う社会活動はありますか

選択項目	人数	構成比
文化的趣味	6	12.5%
健康、スポーツ	13	27.1%
生産、就業	1	2.1%
教育、文化	7	14.6%
生活環境の改善	0	0.0%
安全管理	2	4.2%
福祉活動	1	2.1%
地域行事	2	4.2%
特になし	7	14.6%
その他	0	0.0%
無回答	9	18.8%
計	48	100.0%

問4.2 生活の楽しみは何ですか

選択項目	人数	構成比
テレビ、ラジオ、新聞等	24	36.9%
趣味、娯楽	9	13.8%
友人、知人などとのつきあい	4	6.2%
家族との団らん	13	20.0%
旅行	2	3.1%
仕事、家事	0	0.0%
団体やサークル活動	2	3.1%
スポーツや体操など	1	1.5%
知識や教養を高める活動	2	3.1%
ボランティアやその他地域活動	1	1.5%
特にない	2	3.1%
その他	3	4.6%
無回答	2	3.1%
計	65	100.0%

問4.3 生活に際して知りたい情報はありますか

選択項目	人数	構成比
公共施設、公園、行楽地等の設備の状況	3	4.8%
町内会や地域活動などの活動内容	2	3.2%
催し物や講座、教室などの開催状況	3	4.8%
障がい者の仕事を紹介するところやその内容	3	4.8%
福祉施設の内容や受けられるサービス	12	19.0%
生活や医療などの相談窓口	5	7.9%
援助や補助などの福祉の制度	9	14.3%
病院の内容や状況	4	6.3%
日常生活を助けてくれるホームヘルパーやボランティアの内容	9	14.3%
特にない	5	7.9%
その他	0	0.0%
無回答	8	12.7%
計	63	100.0%

問4.4 生活の情報をふだんどこから得ていますか

選択項目	人数	構成比
役場の窓口	6	10.0%
町の広報誌「広報たまむら」	13	21.7%
インターネット（町のホームページ等）	2	3.3%
町以外の公共機関の窓口	3	5.0%
テレビ、ラジオ、新聞	11	18.3%
民生委員の訪問	0	0.0%
保健師、ホームヘルパーの訪問	1	1.7%
障害者団体	5	8.3%
ボランティア	0	0.0%
社会福祉関連施設	7	11.7%
病院などの医療機関	3	5.0%
その他	3	5.0%
無回答	6	10.0%
計	60	100.0%

問4.5 情報に対する満足度はどれくらいですか

選択項目	人数	構成比
満足している	2	5.6%
かなり満足している	1	2.8%
まあまあである	16	44.4%
少し不満を感じる	8	22.2%
極めて不満である	2	5.6%
無回答	7	19.4%
計	36	100.0%

問4.6 問い合わせしやすい、あるいは便利な機関、窓口はどこですか

選択項目	人数	構成比
役場	19	33.3%
社会福祉協議会	5	8.8%
民生委員	2	3.5%
保健福祉事務所	2	3.5%
利用中の障害者福祉施設	16	28.1%
医療機関	1	1.8%
障害者相談員	5	8.8%
その他	0	0.0%
無回答	7	12.3%
計	57	100.0%

問4.7 障がい者に対する一般住民の理解は、どの程度だと思われますか

選択項目	人数	構成比
理解されている	0	0.0%
少しは理解されている	6	16.7%
あまり理解されていない	14	38.9%
理解されていない	7	19.4%
どちらともいえない	4	11.1%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問4.8 障がい者に対する町民の理解を浸透させるためにはどうしたらよいと思いますか

選択項目	人数	構成比
スポーツ、レクリエーション、文化活動など地域の人々との交流	8	11.6%
町民や企業を対象とした講演会や研修会の実施	13	18.8%
ボランティアの育成	11	15.9%
障がい者自身が積極的に町にでる	12	17.4%
学校での障がいに関する教育	13	18.8%
「福祉週間」や「障害者の日」などのPR	6	8.7%
その他	0	0.0%
無回答	6	8.7%
計	69	100.0%

問49 近所付き合いの状況はどうか

選択項目	人数	構成比
会ったときにはあいさつをする	21	58.3%
世間話をする	1	2.8%
一緒に遊ぶ	0	0.0%
町内会などの地域の活動を一緒にする	2	5.6%
趣味やスポーツを一緒にする	1	2.8%
ほとんど付き合いはない	6	16.7%
その他	0	0.0%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問50 ボランティア活動について知っていますか

選択項目	人数	構成比
直接協力を受けている	6	16.7%
周りでは活動があることを知っている	6	16.7%
聞いたことはある	8	22.2%
ほとんど知らない	10	27.8%
その他	1	2.8%
無回答	5	13.9%
計	36	100.0%

問51 ボランティアが必要なときはどのようなときですか

選択項目	人数	構成比
外出の時の付き添い	19	36.5%
買い物の手伝い	5	9.6%
レクリエーションなどの付き添い	10	19.2%
料理、洗濯、掃除の手伝い	3	5.8%
育児の手伝い	1	1.9%
入浴の介助	1	1.9%
家や庭の手入れ	0	0.0%
手話通訳、要約筆記など	1	1.9%
必要ない	3	5.8%
その他	0	0.0%
無回答	9	17.3%
計	52	100.0%

問53 玉村町の障がい者（児）福祉に関することご意見がありましたら、ご自由にお書きください

意見等
<p>・障害児の通う学童保育の充実を願う。今は、カシオペイヤしかなくほとんどが養護学校へ通っている子供達で養護学校にあわせているため今年の夏休みは8/25日～養護学校がはじまったため町の特学に通っている子供はカシオペイヤに行きたくても行けなかった。老人は、ティサービスなど町外自由に選んで行けるのに子供たちは、町外の学童保育へ通えないのでしょうか？検討してください。</p>
<p>・特別支援教育になったのに地域の学校の受け入れができていない。子供のことで別の場所に行くたびに同じ説明をしなくて良くなるようにならないかと思う。生活にわたって支援する「個別支援計画」があるといいです。県立にも子供にとってよければ通えるようになると思います。私たちの願いは、障がいのある子供たちが地域の人々に理解され共に支えあいながら社会地域の一人として安心して暮らしていけることです。</p>
<p>・かんたんなことばでかいてほしい。かん字にふりがなをふってほしい。どんな時に、どんなサービスがうけられるのかくわしくおしえてほしい。</p>
<p>・より良い障害者福祉、どこの町にも負けない障害者福祉を目指してください。</p>

・現在、のばらの生活支援サービスを利用していますが、制度の改正に伴い利用者数も増加してきました。その結果スペース的にも狭くなりリハビリ訓練やレクリエーションをするにも使用できる用具が制約されてのびのび十分な活動が出来ません。もう少しゆとりあるスペースをお願いします。又現在短期入所や、日帰りショートは伊勢崎（天啓園）や高崎、前橋、藤岡等といった近隣の施設に行っていますが、是非自分たちの町に出来ることを希望します。また町運営のグループホームがあれば将来的に親も安心で規模は大きくなくても利用したい施設が自分の町にあるようになると良いと思います。

・作業所を利用していますが、たまりの時間帯を考えていただきたい。送迎について検討してください。

・社会人になってしまうと交流の場はいつやっているかわからないので、はがき等で教えてもらいたい。

・玉村ことば教室は、なぜ特別学級に行く通級できないのでしょうか？学校で指導があると聞きましたが実際は特になんかと思いません。障がい児も親にとっても相談に乗ってくれる先生方は貴重です。保健センターの発達相談も同じで学校があがると相談が終了してしまいます。年齢が上がるにつれ困ったこともおき専門の先生の相談を必要としますが出来ないだれに相談すればいいかわからない職員の方が多くいろんな窓口を回されました。子供の発達に不安な方は結構いると思います。広報などに相談できる連絡場所を載せていただくと助かります。

・障害者を理解してくださる医療機関がほしい。移動支援で料金を取られるようになりました。見直しをしていただきたい。役場全体で障害者の事をもっと理解し受け入れ体制を作ってもらいたい。

・自分では家事お金の使い方もわからない本当に知的障害者で一人では生活できません。現在は施設で見てもらっていただき町からも多額の自立支援給付を頂本にありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。

・子供（障害者）21歳親53歳ですが将来グループホーム（ケアホーム）を利用できればと考えていますが、町内に利用できる所がないので今後出来ればよいと思っています。

・他の町や市の施設の利用を認めてほしい。町内だけでは、少なすぎて選べず不便でお金がかかりすぎる。学童で宿題や勉強をみてくれるボランティアさんのいるような施設がほしい。養護学校の子中心で特学の子はどこにいっていいかわからない。町で学童施設を作してほしい。

・駐車場で車椅子マークのある場所に障害のない人が止めている。

・現在のばらに通所しており、土日の休日には親が散歩買い物等連れてあるいておりますが親が病気又は体調が悪いときには何も出来ず家にこもってしまうこともありボランティアの協力が出来る様な方法、手続が知りたいと思います。又親も高齢になり今後のことが心配です。

・通所施設への送迎バスなどを、考えていただきたいです。送迎する親も高齢になって行きますので負担が大きいです。

・玉村町のプールには障害者用の更衣室がないので本人が（16歳）なので母親しか付き添えないときは着替えの介助のため藤岡のみずとびあまで行っています。女性の介助者でも付き添える更衣室が欲しいと思います。たまりの利用を練習していますがなかなか難しく、現在親が送迎ができていますが、高齢になると交通手段のことが問題になると思います。

※アンケートの意見については、回答者の意向を損なわないよう、回答していただいた内容をそのまま掲載させていただきました。

玉村町障害者福祉計画アンケート調査結果（精神障害者）

アンケート郵送数50通

回収数・・・26通

回収率・・・52%

ご記入くださるのはどなたですか。

選択項目	人数	構成比
本人	24	92.3%
父親・母親	1	3.8%
配偶者	1	3.8%
兄弟姉妹	0	0.0%
子供	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問1 年齢は何歳ですか

選択項目	人数	構成比
10歳代	1	3.8%
20歳代	2	7.7%
30歳代	6	23.1%
40歳代	9	34.6%
50歳代	7	26.9%
60歳代	1	3.8%
70歳代	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問2 性別は

選択項目	人数	構成比
男	14	53.8%
女	12	46.2%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問3 この病気になったのは何歳の頃でしたか

選択項目	人数	構成比
20歳未満	4	15.4%
20歳代	9	34.6%
30歳代	9	34.6%
40歳代	2	7.7%
50歳代	0	0.0%
60歳代	1	3.8%
無回答	1	3.8%
計	26	100.0%

問4 どなたと一緒に暮らしていますか

選択項目	人数	構成比
親	11	27.5%
配偶者	12	30.0%
兄弟姉妹	4	10.0%
子供	7	17.5%
孫	2	5.0%
一人暮らし	4	10.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	40	100.0%

問5 お住まいの状況はどうなっていますか

選択項目	人数	構成比
持ち家	19	73.1%
町営住宅	1	3.8%
社宅、官舎、療	0	0.0%
一戸建民間借家	1	3.8%
アパート、賃貸マンション	3	11.5%
間借り	0	0.0%
その他	2	7.7%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問6 就労状況についてうかがいます

選択項目	人数	構成比
正規の社員・職員として勤めている	5	19.2%
パート・臨時・日雇・アルバイトをしている	6	23.1%
自営業	0	0.0%
家事・家業を手伝っている	7	26.9%
内職	1	3.8%
福祉施設・デイケアなどに通っている	2	7.7%
就職活動中	2	7.7%
無回答	3	11.5%
計	26	100.0%

問7 本人の現在の生活状況について

選択項目	人数	構成比
身の回りのことすべて自分でおこなっている	17	65.4%
身の回りの一部に誰かの手伝いが必要	7	26.9%
身の回りの大部分に誰かの手伝いが必要	0	0.0%
入院中	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	2	7.7%
計	26	100.0%

問8 外出の状態について

選択項目	人数	構成比
一人で自由に行動できる	17	65.4%
町内程度なら一人で外出できる	2	7.7%
自宅周辺なら一人で外出できる	3	11.5%
誰かと一緒なら出かけることができる	3	11.5%
あまり外出しない	1	3.8%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問9 外出するときの主な交通手段は

選択項目	人数	構成比
自家用車（自分で運転）	14	53.8%
自家用車（家族等が運転）	7	26.9%
バス	0	0.0%
電車	0	0.0%
タクシー	0	0.0%
原付自転車、バイク	0	0.0%
利用しない（徒歩、自転車等）	5	19.2%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問10 外出の日数はどれくらいですか

選択項目	人数	構成比
ほとんど毎日	15	57.7%
週に3～4日	5	19.2%
週に1～2日	5	19.2%
月に2～3日	0	0.0%
年に数回	0	0.0%
外出しない	1	3.8%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問11 外出の主な目的は

選択項目	人数	構成比
仕事、学校（通勤、通学）	13	25.5%
施設に通うため（通所）	2	3.9%
治療、リハビリ（通院）	13	25.5%
買い物	13	25.5%
趣味	4	7.8%
散歩	3	5.9%
地域の行事	0	0.0%
旅行	0	0.0%
その他	2	3.9%
無回答	1	2.0%
計	51	100.0%

問12 外出する時に困っていることや必要なこと

選択項目	人数	構成比
特に困っていない	16	57.1%
バスなどの公共交通機関の充実	7	25.0%
外出時に介助や手助けしてくれるホームヘルパーの協力	0	0.0%
外出時に介助や出助けしてくれるボランティアの協力	2	7.1%
その他	1	3.6%
無回答	2	7.1%
計	28	100.0%

問13 今後、どのようなところで暮らしたいと思いますか

選択項目	人数	構成比
ひとりでアパートや借家、公営住宅で暮らす	5	19.2%
食事や身のまわりの面倒をみてくれる人のいる共同住宅	0	0.0%
生活指導してくれる職員がいる寮のようなところ（援護寮）	0	0.0%
家族のいる自宅	17	65.4%
その他	0	0.0%
わからない	3	11.5%
無回答	1	3.8%
計	26	100.0%

問14 今後、日中はどのようにして過ごしたいと思いますか

選択項目	人数	構成比
就労したい	14	53.8%
就労・就職のための就労支援施設等に通う	0	0.0%
学校に通う	1	3.8%
家の手伝い	1	3.8%
家において好きなことをする	4	15.4%
精神科デイケアや地域活動視線センターなどで仲間と過ごす	0	0.0%
その他	3	11.5%
わからない	2	7.7%
無回答	1	3.8%
計	26	100.0%

問15 今後、働くとしたら、特にどのような条件が大切だと思いますか

選択項目	人数	構成比
正規に雇用してくれる職場	8	22.9%
パートなど短時間働ける職場	6	17.1%
病気を理解し、疲労時に休暇のとれる職場	11	31.4%
相談、援助の担当者がいる職場	1	2.9%
特にない	1	2.9%
わからない	4	11.4%
その他	2	5.7%
無回答	2	5.7%
計	35	100.0%

問16 就労に関してあなたにとって役立つ施設・制度は何ですか

選択項目	人数	構成比
就労移行支援施設	6	17.1%
障害者職業センター、職業訓練校	6	17.1%
ハローワークの職業紹介や職場適応訓練制度	9	25.7%
その他	1	2.9%
特にない	9	25.7%
わからない	4	11.4%
無回答	0	0.0%
計	35	100.0%

問17 あなたは現在、話し相手や身のまわりのことを相談できる人がいますか

選択項目	人数	構成比
いる	25	96.2%
いない	1	3.8%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問18 問17で「いる」と答えた方に伺います。話し相手や相談できる方とはどなたですか

選択項目	人数	構成比
家族	21	44.7%
友人	7	14.9%
病院職員(主治医、ケースワーカー等)	15	31.9%
保健福祉事務所や役場の職員(保健師等)	0	0.0%
民生委員	1	2.1%
職場の人	1	2.1%
その他	1	2.1%
無回答	1	2.1%
計	47	100.0%

問19 問17で「いる」と答えた方に伺います。相談する内容は主にどんなことですか

選択項目	人数	構成比
仕事のこと	9	22.0%
友人や話し相手が少ないこと	0	0.0%
趣味がないこと	1	2.4%
結婚のこと	0	0.0%
家族のこと	6	14.6%
職場や近所との人間関係	3	7.3%
生活費のこと	4	9.8%
自分の病気や医療のこと	17	41.5%
その他	0	0.0%
無回答	1	2.4%
計	41	100.0%

問20 問17で「いない」と答えた方に伺います。あなたは今後、話し相手や身のまわりのことを相談できる人が必要ですか

選択項目	人数	構成比
なにかと話しあえる仲間がほしい	0	0.0%
いつも身近で相談に乗ってくれる専門家がほしい(保健師等)	0	0.0%
具合が悪くなったら、相談に乗ってくれるところがほしい(病院等)	0	0.0%
家族と暮せればそれでいい	0	0.0%
その他	0	0.0%
特に必要はない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	1	100.0%
計	1	100.0%

問21 家族以外で身のまわりのことを協力、手伝ってくれる人が必要ですか

選択項目	人数	構成比
必要	6	23.1%
必要ない	16	61.5%
無回答	4	15.4%
計	26	100.0%

問22 問21で「必要」と答えた方に伺います。身のまわりのことで、やってもらいたいことは何ですか

選択項目	人数	構成比
家事(食事、そうじ、洗濯等)	1	16.7%
外出(通院)の時の援助	1	16.7%
服薬の管理	0	0.0%
お金の管理	0	0.0%
事務的な手続き(手帳や医療費公費負担の申請等)	3	50.0%
その他	0	0.0%
無回答	1	16.7%
計	6	100.0%

問23 自分の生活費(医療費を含む)はどのようにまかっていますか

選択項目	人数	構成比
自分の収入(就労や年金など)でまかっている	8	30.8%
自分の収入(就労や年金など)で足りないので、一部家族の収入で補充している	11	42.3%
すべて家族の収入でまかっている	6	23.1%
その他	0	0.0%
わからない	1	3.8%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問24 問23で「①または②」と答えた方に伺います。主な収入は何ですか。また、収入の月額はいくら位ですか

選択項目	人数	構成比
給料	11	57.9%
障害年金・手当	5	26.3%
通所施設(福祉的就労)	0	0.0%
家業の手伝い	0	0.0%
本人名義の資産からの収入	1	5.3%
その他	1	5.3%
無回答	1	5.3%
計	19	100.0%

問24-2 収入月額

選択項目	人数	構成比
50,000円以下	3	11.5%
50,001~100,000円	4	15.4%
100,001~150,000円	2	7.7%
150,001~200,000円	4	15.4%
200,001~250,000円	1	3.8%
250,001円以上	4	15.4%
無回答	8	30.8%
計	26	100.0%

問25 今後、生活費はどのようにしていこうと思っすか

選択項目	人数	構成比
自分で働いて稼ぐ	12	46.2%
障害年金でまかなう	3	11.5%
家族に援助してもらおう	3	11.5%
その他	4	15.4%
わからない	3	11.5%
無回答	1	3.8%
計	26	100.0%

問26 現在通院をしていますか。

選択項目	人数	構成比
通院している	26	100.0%
入院している	0	0.0%
入院と退院を繰り返している	0	0.0%
通院していない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問27 通院の主な手段は何ですか。

選択項目	人数	構成比
自分で行く	15	57.7%
家族と一緒に行く	11	42.3%
ホームヘルパーと一緒に行く	0	0.0%
通院が困難な時に往診してくれる医師がいる	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問28 看護師等による訪問看護をうけていますか。

選択項目	人数	構成比
受けている	2	7.7%
必要だから来てくれない	0	0.0%
受けていない	24	92.3%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問29 医療について、困っていることはありますか。

選択項目	人数	構成比
緊急のときに対応してくれるところがない	3	10.0%
医療機関が遠いので通院するのに交通費がかかる	6	20.0%
医療費がかかりすぎる	6	20.0%
金銭的に家族に負担がかかる	2	6.7%
通院の送迎で家族に負担がかかる	4	13.3%
通院に連れて行ってくれる人がいない	0	0.0%
その他	1	3.3%
特になし	8	26.7%
無回答	0	0.0%
計	30	100.0%

問30 現在、自立支援医療費制度をうけていますか。

選択項目	人数	構成比
受けている	23	88.5%
受けていない	1	3.8%
無回答	2	7.7%
計	26	100.0%

問31 問30で「受けていない」と答えた方に伺います。自立支援医療費制度を受けていない理由は何ですか。

選択項目	人数	構成比
そういう制度があることを知らなかった	1	100.0%
どういう制度なのか内容が分からない	0	0.0%
申請の方法が分からない	0	0.0%
申請したが、適応にならなかった	0	0.0%
通院していない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	1	100.0%

問32 現在、精神障害者福祉手帳をお持ちですか。

選択項目	人数	構成比
持っている	10	38.5%
持っていない	16	61.5%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問33 問32で「持っていない」と答えた方に伺います。精神障害者福祉手帳を持っていない理由は何ですか。

選択項目	人数	構成比
手帳があることを知らなかった	8	50.0%
どうゆう手帳なのか内容がわからない	4	25.0%
申請の方法がわからない	0	0.0%
申請したが適応にならなかった	0	0.0%
その他	4	25.0%
無回答	0	0.0%
計	16	100.0%

問34 精神障害者福祉手帳を持っていることによって、利用できる制度をご存じですか。

選択項目	人数	構成比
すでに制度を利用している	5	19.2%
知っているが利用していない	3	11.5%
知らない	13	50.0%
無回答	5	19.2%
計	26	100.0%

問35 (1) -ア (1) 日中活動の場（生活介護、自立訓練、就労移行・継続支援施設、地域活動支援センター）

選択項目	人数	構成比
知っている	3	11.5%
知らない	20	76.9%
無回答	3	11.5%
計	26	100.0%

問35 (1) -イ (1) 日中活動の場（生活介護、自立訓練、就労移行・継続支援施設、地域活動支援センター）

選択項目	人数	構成比
利用している	1	3.8%
今後利用したい	4	15.4%
利用したくない	5	19.2%
分からない	12	46.2%
無回答	4	15.4%
計	26	100.0%

問35(2)-ア (2) 住まいの場(福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム)

選択項目	人数	構成比
知っている	9	34.6%
知らない	15	57.7%
無回答	2	7.7%
計	26	100.0%

問35(2)-イ (2) 住まいの場(福祉ホーム、グループホーム、ケアホーム)

選択項目	人数	構成比
利用している	0	0.0%
今後利用したい	3	11.5%
利用したくない	10	38.5%
分からない	8	30.8%
無回答	5	19.2%
計	26	100.0%

問35(3)-ア (3) ホームヘルプサービス

選択項目	人数	構成比
知っている	8	30.8%
知らない	18	69.2%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問35(3)-イ (3) ホームヘルプサービス

選択項目	人数	構成比
利用している	1	3.8%
今後利用したい	3	11.5%
利用したくない	5	19.2%
分からない	9	34.6%
無回答	8	30.8%
計	26	100.0%

問35(4)-ア (4) 自動車税、軽自動車税及び自動車取得税の非課税制度

選択項目	人数	構成比
知っている	3	11.5%
知らない	21	80.8%
無回答	2	7.7%
計	26	100.0%

問35(4)-イ (4) 自動車税、軽自動車税及び自動車取得税の非課税制度

選択項目	人数	構成比
利用している	2	7.7%
今後利用したい	7	26.9%
利用したくない	1	3.8%
分からない	9	34.6%
無回答	7	26.9%
計	26	100.0%

問35(5)-ア (5) バスなどの運賃割引や公共施設使用料の減免制度

選択項目	人数	構成比
知っている	8	30.8%
知らない	18	69.2%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問35(5)-イ (5) バスなどの運賃割引や公共施設使用料の減免制度

選択項目	人数	構成比
利用している	3	11.5%
今後利用したい	6	23.1%
利用したくない	3	11.5%
分からない	6	23.1%
無回答	8	30.8%
計	26	100.0%

問36 生活に関することで知りたい情報はありますか。

選択項目	人数	構成比
特にない	10	19.6%
公共施設、公園、行楽地等の設備の状況	1	2.0%
町内会や地域活動などの活動内容	1	2.0%
催し物や講座、教室などの開催状況	4	7.8%
障がい者の仕事を紹介するところやその内容	7	13.7%
福祉施設の内容や受けられるサービス	2	3.9%
生活や医療などの相談窓口	8	15.7%
福祉の制度(援助や補助など)	10	19.6%
病院の内容や状況	3	5.9%
日常生活を助けてくれるホームヘルパーやボランティアの内容	5	9.8%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	51	100.0%

問37 生活の情報をふだんどこから得ていますか。

選択項目	人数	構成比
役場の窓口	1	2.0%
町の広報誌	8	16.0%
インターネット(町のホームページ等)	3	6.0%
町以外の公共機関の窓口	0	0.0%
テレビ、ラジオ、新聞	19	38.0%
インターネット	6	12.0%
民生委員の訪問	0	0.0%
保健師、ホームヘルパー	1	2.0%
障がい者団体	0	0.0%
ボランティア	0	0.0%
社会福祉関連施設	1	2.0%
病院などの医療機関	10	20.0%
その他	1	2.0%
無回答	0	0.0%
計	50	100.0%

問38 情報に対する満足度はどれくらいですか。

選択項目	人数	構成比
満足している	4	15.4%
かなり満足している	4	15.4%
まあまあである	10	38.5%
少し不満を感じる	8	30.8%
極めて不満である	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	26	100.0%

問39 問い合わせしやすい、あるいは便利な機関、窓口はどこですか

選択項目	人数	構成比
玉村町役場（保健センター）	18	48.6%
社会福祉協議会	1	2.7%
民生委員	1	2.7%
保健福祉事務所	1	2.7%
地域活動支援センター	1	2.7%
医療機関	11	29.7%
群馬県こころの健康センター	1	2.7%
その他	2	5.4%
無回答	1	2.7%
計	37	100.0%

問40 障がい者に対する一般住民の理解は、どの程度だと思いますか。

選択項目	人数	構成比
理解されている	8	23.5%
少しは理解されている	1	2.9%
あまり理解されていない	13	38.2%
理解されていない	8	23.5%
どちらともいえない	2	5.9%
無回答	2	5.9%
計	34	100.0%

問41 障がい者が住みよいまちをつくるためには、今後どのようなことが重要だと思いますか。

選択項目	人数	構成比
福祉教育や広報などによる一般住民に対する精神障がい者への理解促進	7	6.9%
精神障がい者と住民がふれあう機会や場の確保	5	5.0%
障がいの予防と早期発見・早期治療	9	8.9%
専門的な医療機関の確保	10	9.9%
精神科緊急医療体制の充実	2	2.0%
医療費の軽減（医療費の公費による援助）	14	13.9%
働く場の確保	15	14.9%
障害者職業センター、職業訓練校の充実	0	0.0%
ハローワーク（職業紹介）の充実	7	6.9%
福祉的雇用（就労移行・継続支援）の充実	2	2.0%
相談機能の充実	4	4.0%
サービス利用手続きの簡素化・スピード化	3	3.0%
ホームヘルプサービスの充実	1	1.0%
ショートステイ（緊急時の一時入所）の充実	1	1.0%
デイケアの充実	2	2.0%
地域活動支援センターの充実	2	2.0%
手当などの経済的援助の充実	5	5.0%
社会福祉の専門的な人材確保・養成	2	2.0%
社会適応訓練の充実	1	1.0%
ボランティアの育成	1	1.0%
通所施設（生活介護、自立訓練）の充実	2	2.0%
援護寮・福祉ホームの整備	1	1.0%
ケアホーム・グループホームの整備	1	1.0%
文化的趣味（陶芸・絵画・編み物等）への参加の促進	2	2.0%
スポーツ・レクリエーションや各種文化行事への参加の促進	2	2.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	101	100.0%

問42 玉村町の障がい者（児）福祉に関することでご意見がありましたら、ご自由にお書きください

意見
・通院で車が使えなくなった場合バスの利用の仕方がよくわからない。どこからどこまでバスが走っているにかからない。たまりんのこともよくわからない。路線図を配布してほしい。
・玉村町の町づくりに少しでも参加できる様にしていきたいと思えます。
・私立高校の教員でしたが、うつになり1年半休職しました。完全復帰は難しいので、軽減勤務をお願いしましたが、みとめられず、やむなく退職せざるをえませんでした。もっと精神的な病気に対する理解が、職場、社会にあったらかと思いました。今は、バイトしていますがもちろんうつのことは話していません。
・手帳について詳しく知りたい。この病気は、周りに理解してもらえない上、周りにかくしなからの通院である。保健センターですら、知り合いがいそいで嫌なのでもっと違うところで管理してほしい。

・国や市町村から受けられる福祉制度などの情報をもっと速くわかりやすく知ることが出来利用になったらと思う。実際に病気で働けなくなったり、家族が働けなくなったりして収入が減り生活も苦しいのが厳しい現状です。更に心身ともに追い詰められることになって……こういう状況を少しでも改善できたら安心して病気を治すことが出来るし速くなおると思う。社会の中で精神障害者が病気で通院をしていたことが後ろめたさか偏見もなく、暮らせる様になったらと思います。

・自立支援医療費のおかげで大変助かっています。もしこの制度がなかったら家族にも自分にも大きな負担となっていたと思います。これからも病気になるってしまった人達に暖かい手を差し伸べてくれますようお願いいたします。

※アンケートの意見については、回答者の意向を損なわないよう、回答していただいた内容をそのまま掲載させていただきました。

玉村町障害者福祉計画アンケート調査結果（一般市民）

アンケート郵送数293通

回収数・・・117通

回収率・・・39.9%

問1 現在、あなたの年齢は何歳ですか

選択項目	人数	構成比
20歳代	12	10.3%
30歳代	22	18.8%
40歳代	21	17.9%
50歳代	24	20.5%
60歳代	38	32.5%
無回答	0	0.0%
計	117	100.0%

問2 あなたの性別は

選択項目	人数	構成比
男	42	35.9%
女	75	64.1%
無回答	0	0.0%
計	117	100.0%

問3 あなたの職業は

選択項目	人数	構成比
会社員	28	23.9%
自営業	13	11.1%
農業	1	0.9%
団体職員	3	2.6%
公務員	6	5.1%
パート・アルバイト	23	19.7%
専業主婦	26	22.2%
学生	2	1.7%
無職	11	9.4%
その他	4	3.4%
無回答	0	0.0%
計	117	100.0%

問4 あなたの家族構成は

選択項目	人数	構成比
夫婦と子ども（長子が18歳以上）	28	23.9%
夫婦と子ども（長子が18歳未満）	25	21.4%
三世以上	17	14.5%
夫婦のみ	22	18.8%
単身	8	6.8%
母子・父子	11	9.4%
その他	6	5.1%
無回答	0	0.0%
計	117	100.0%

問5 あなたは、地域の中やご近所において、障がいを持つ方が困っているのを見かけたときに手助けをしますか

選択項目	人数	構成比
する	42	35.9%
場合によってはする	72	61.5%
しない	0	0.0%
無回答	3	2.6%
計	117	100.0%

問6 あなたご自身が妊娠や病気、けがなど、何らかの理由でそれまでの日常生活に対し他の人の手助けを必要としたことや実際に手助けを受けたことはありますか

選択項目	人数	構成比
手助けを必要としたことがある	16	13.7%
手助けを受けたことがある	30	25.6%
特になし	71	60.7%
無回答	0	0.0%
計	117	100.0%

問7 問6で「①または②」と答えた方に伺います。どのような手助けを必要としたり、また実際に手助けを受けましたか

必要とした手助け、受けた手助け	
妊娠しておなかが大きいとき。	(20歳代、女)
移動介助	(20歳代、男)
仕事の手伝いなど	(20歳代、男)
おなかが痛くなったとき見ず知らずの方が病院まで送ってくれた。	(30歳代、女)
荷物を持ってほしかった。	(30歳代、女)
妊婦の買い物のときに重たいものを運ぶ際に手助けがほしかった。手助けは、受けませんでした。	(30歳代、女)
家事を手伝ってもらいました。	(30歳代、女)
電車内で席をゆずった。荷物を運んだ。	(30歳代、女)
妊娠中、買い物をしたときレジの人がカゴを袋に入れる場所まで持って行ってくれました。おなかがすごく大きかったので助かりました。	(30歳代、女)
送迎	(30歳代、女)
義父母に世話になっている。	(30歳代、男)
病院まで送ってもらった。	(30歳代、男)
ぎっくり腰で動けない時の家事など	(40歳代、女)
幼稚園への送迎、預かりなど	(40歳代、女)
産後1ヶ月身のまわりのこと。	(40歳代、女)
子供が熱を出したとき近所の方に助けてもらいました。	(40歳代、女)
ドアを開けてもらう。荷物を持ってもらう。	(40歳代、女)
ベビーカーを使い階段の上り下り、特に小さい子供が2人のとき。	(40歳代、女)
入院生活を余儀なくされ、手助けをずいぶんに頂いた。	(50歳代、女)
家事・買い物	(50歳代、女)
子供が小さいとき色々とう事が出来た時、病気になったりみんなで小さい子供を預かった。私もみてもらいました。	(50歳代、女)
怪我をしたとき病院に連れて行ってもらった。	(50歳代、女)
子供の幼稚園の送り迎えの手助けを受けた。	(50歳代、女)
シャンプーをしてもらった。(手首骨折のため)	(50歳代、男)
交通事故の時、車の移動や警察等への連絡等	(50歳代、男)
車の乗り降り等	(50歳代、男)
病院への送迎	(50歳代、男)
急な腰痛で起き上がれなくなった。	(50歳代、男)
怪我をしたとき病院に連れて行ってもらった。家事の手助けを受けた。	(60歳代、女)

その方の体が具合が悪いので高崎の病院まで薬をもらいに行きました。	(60歳代、女)
入院したとき	(60歳代、女)
急病になり救急車を呼んだとき付き添ってくれた人、子供の面倒を見てくれた人、ご近所のお世話になりました。4人目出産のとき家の中のこと子供の世話をしてくれた。子供がいじめを受けた時学校の行き帰り散歩しながら声をかけてくれて、いじめがなくなりました。	(60歳代、女)
足が痛く車に乗れないためバスなど通っていなかったため送っていただきこのときほど助かったと思った。	(60歳代、女)
病院への送迎。	(60歳代、女)
生ごみを出すこと。重いものの移動。	(60歳代、女)
手術を受けた時ベッドまで台車で介助を受けた。	(60歳代、男)
入浴	(60歳代、男)
病気による長期入院	(60歳代、男)
運転	(60歳代、男)
食事の調達、病院への送迎	(60歳代、男)

問8 障がい者に対して、どんなイメージを持っていますか

選択項目	人数	構成比
体や心に障がいがあるのは、かわいそう	44	16.0%
自分の殻に閉じこもっていると思う	11	4.0%
ふつうに接したいと頭ではわかっているが、どこか構えてしまう	53	19.3%
どう考えていいかわからない	2	0.7%
交流がないので、正直よくわからない	27	9.8%
障がいといってもいろいろあり、人によってちがうと思う	75	27.3%
受け入れていないのは、社会のほうだと思ふ	17	6.2%
障がいも、そのひとの個性の範囲で、人間としてなら健康者とかわりはない	34	12.4%
何をされるかわからないのでこわい	2	0.7%
特に関心がない	2	0.7%
その他	3	1.1%
無回答	5	1.8%
計	275	100.0%

問9 あなたは、障がいを持つ方の問題について関心を持っていますか

選択項目	人数	構成比
非常に関心がある	7	6.0%
ある程度関心がある	79	67.5%
あまり関心がない	26	22.2%
まったく関心がない	1	0.9%
無回答	4	3.4%
計	117	100.0%

問10 問9で「関心がある」(①または②)と答えた方にうかがいます。どのような理由から関心をお持ちですか

選択項目	人数	構成比
自分の身内や、近所、知り合いに障がいを持った方がいるから	39	27.1%
将来自分の身内や、近所、知り合いに障がいを持った方が出ることありえるので	47	32.6%
障がい者(児)のボランティア活動を行っているから	3	2.1%
障がい者(児)のボランティア活動を行いたいと思っているから	3	2.1%
自分自身、福祉に関する職業についているから	5	3.5%
最近、テレビや雑誌等で、障がい者に関することを目にしたり、聞いたりするから	33	22.9%
県や町の広報で、障がい者に関することを目にするから	9	6.3%
その他	4	2.8%
特になし	0	0.0%
無回答	1	0.7%
計	144	100.0%

問11 問9で「関心がない」(③または④)と答えた方にうかがいます。どのような理由から関心がないのですか

選択項目	人数	構成比
身近に障がいを持つ方がいないから	12	44.4%
障がい者に接する機会がないから	12	44.4%
情報がない	3	11.1%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	27	100.0%

問12 家族で障がいについて話し合ったことがありますか

選択項目	人数	構成比
ある	50	42.7%
ない	63	53.8%
無回答	4	3.4%
計	117	100.0%

問13 あなたがもし障がいをもった場合、どこで生活したいですか

選択項目	人数	構成比
自宅	69	59.0%
施設	30	25.6%
その他	12	10.3%
無回答	6	5.1%
計	117	100.0%

問14 あなたは、障がいを持つ方や、ねたきり、ひとり暮らしの高齢者の方々に対する福祉関係のボランティア活動に関心がありますか

選択項目	人数	構成比
非常に関心がある	6	5.1%
ある程度関心がある	74	63.2%
あまり関心がない	30	25.6%
まったく関心がない	0	0.0%
無回答	7	6.0%
計	117	100.0%

問15 あなたは、障がいを持つ方や、ねたきり、ひとり暮らしの高齢者の方々に対する福祉関係のボランティア活動をしたことがありますか

選択項目	人数	構成比
現在活動をしている	4	3.4%
以前活動したことがあるが、現在はしていない	15	12.8%
活動したことがない	94	80.3%
無回答	4	3.4%
計	117	100.0%

問16 問15で「①現在活動している」と答えた方にうかがいます。どのような活動をしていますか

選択項目	人数	構成比
相談や安否確認	2	40.0%
障がい者や高齢者の日常生活の援助	1	20.0%
社会福祉施設や機関に対する援助	1	20.0%
スポーツ・レクリエーションの指導・介助	0	0.0%
手話・点訳・朗読活動	0	0.0%
ミニコミ紙や絵本の製作活動	0	0.0%
専門技能を生かした教育・活動・指導活動	0	0.0%
その他	1	20.0%
無回答	0	0.0%
計	5	100.0%

問17 問15で「活動していない」（②または③）と答えた方にうかがいます。活動していない主な理由は何ですか

選択項目	人数	構成比
仕事や家事が忙しく時間がとれないから	52	31.7%
小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから	20	12.2%
健康に自信がないから	18	11.0%
活動したい気持ちはあるがきっかけがつかめないから	22	13.4%
身近に活動グループや仲間がいないから	10	6.1%
活動のための費用がないから	2	1.2%
活動のための資格、技術がないから	12	7.3%
家族や職場の理解が得られないから	0	0.0%
興味を持てる活動がないから	6	3.7%
ボランティア活動はしたくないから	4	2.4%
その他	7	4.3%
無回答	11	6.7%
計	164	100.0%

問18 今後、あなたは福祉関係のボランティア活動をしたと思いますか。また、現在活動中の方は、今後とも活動を続けていきたいと思いませんか

選択項目	人数	構成比
ぜひ活動したい	4	3.4%
できれば活動したい	49	41.9%
あまり活動したいとは思わない	51	43.6%
まったく活動したいとは思わない	2	1.7%
無回答	11	9.4%
計	117	100.0%

問19 問18で「活動したい」（①または②）を選んだ方にうかがいます。どのようなボランティア活動をしたいと思いませんか

選択項目	人数	構成比
相談や安否確認	11	14.5%
障がい者や高齢者の日常生活の援助	15	19.7%
社会福祉施設や機関に対する援助	14	18.4%
スポーツ・レクリエーションの指導・介助	10	13.2%
手話・点訳・朗読活動	5	6.6%
ミニコミ紙や絵本の製作活動	5	6.6%
専門技能を生かした教育・活動・指導活動	8	10.5%
その他	5	6.6%
無回答	3	3.9%
計	76	100.0%

問20 あなたのお住まいになっている地域は、障がいを持つ方々にとって住みよいまちだと思いませんか

選択項目	人数	構成比
住みやすい	3	2.6%
やや住みやすい	19	16.2%
やや住みにくい	39	33.3%
住みにくい	15	12.8%
わからない	39	33.3%
無回答	2	1.7%
計	117	100.0%

問21 問21で「すみにくい（③または④）」と答えた方にうかがいます。障がいを持つ方々に住みにくいと思われる理由は何ですか

選択項目	人数	構成比
地域住民の理解や協力が少ない	3	3.0%
交通機関が利用しにくい	36	35.6%
買い物などが不便	11	10.9%
利用しやすい公共施設が少ない	6	5.9%
道路の段差が多かったり、盲人用信号機が少ないなど外出しにくい	23	22.8%
身近に働く場所が少ない	7	6.9%
利用しやすい医療機関が少ない	5	5.0%
機能訓練を行うためのリハビリ施設が少ない	3	3.0%
日常的に通所できるような施設が少ない（デイ・ホームや更生施設等）	5	5.0%
教育環境が不十分	1	1.0%
その他	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	1	1.0%
計	101	100.0%

問22 玉村町の障がい者（児）福祉に関することでご意見がありましたら、ご自由にお書きください

意見	
・障がい者という言葉がいやです。やさしく思いやりの有る呼び方がいいですね。変わるといいですね同じ人間ですから	(20歳代、女)
・障害者の働く場はあるが、中身が厳しい。	(20歳代、男)
・玉村町障害者（児）福祉を行っている事を知りませんでした。	(30歳代、女)
・自分自身障がいをもつ方の関心があまりないので、今後関心を持つよう改めたいと思う。	(30歳代、男)
・身近な活動が感じられない。どこで活動しているかわからない。	(30歳代、男)
・将来高齢者ばかりになるため、働ける人が住みやすい又はメリットがあるような政策を作りたい。	(30歳代、男)
・ベビーカーを押して歩いているとちょっとした道端の障害物に閉口することが多くありました。障害をもった方が気持ちよく暮らせる街になるといいですね。	(40歳代、女)
・一層障害者福祉の充実を図ることを期待します。	(40歳代、女)
・障がい者、高齢者の暮らしやすい町。道路、交通機関などの整備を望む。また、相談しやすい場があったらいいと思う。	(40歳代、女)
・子供たちの通学路等も同様ですが歩道の整備がかなり遅れているように感じます。	(40歳代、男)
・少し前に比べて作業所等、充実してきたように思います。家に閉じ込めておかないで積極的に外に出るご家族もみかけます。多くの子供達が理解出来る様な機会を増やせたら良いと思います。	(50歳代、女)
・テレビなどで障がいや福祉など見たりしますが、身近にまだいないのであまり深く考えたり、行動したことはありません。自分が高齢になればもっと真剣に考えていく事だと思えます。	(50歳代、女)
・今以上に住みやすい玉村町になる様希望します。	(50歳代、女)
・交通機関が利用しにくく、通院買い物等急のケガや病気でつかえるリハビリ施設がない。	(50歳代、男)
・障害者福祉に関しては、公共機関のみの取り組みではなく、町（行政）にある各種団体全員で取り組む様依頼すること。将来的には増となる福祉関係、それに関わる障害者（老人）近い将来やっていくことは確実で、町民全体で取り組む必要があります。町民一人一人の課題として取り組むことです。現在は、自分の事ばかり考えていない町民が多いですが、ここが踏ん張り処です。子供から老人にいたるまで、全員でやれることを考え実行する様希望する。	(50歳代、男)
・アンケートに答えながら、やはりきっかけがないとボランティア活動に参加までのステップさえないのでと思います。本当に、身内の誰か又は自分が不自由な場面になっていないのが現状だからでしょう。普段からその時への対応の仕方を準備しなければいけないのでしょうか。	(50歳代、男)
・個人情報という問題もあるが、緊急事態（災害等）の対応には、やはり地域の人の協力も大切なので日頃の心構え等対策をお願いします。	(60歳代、女)
・目の悪い方と一緒にあるいてみると、道路の段差や歩道等歩きにくい所が多い。	(60歳代、女)

・障害者施設の金額月いくらくらいかかるか教えてほしい。	(60歳代、女)
・これからどんどん高齢者社会になって行くのですごく不安です。住みよい玉村町になったら願っています。	(60歳代、女)
・バスの便が高崎行、前橋行、新町行ともう少したくさんあったらよいと思う。	(60歳代、女)
・障がいのある人も高齢者も、その他社会的弱者と言われる人が生きる社会は一つなのに受けるサービスの窓口がいくつもあるのはおかしい。たとえば福祉課、学校教育課、生涯学習課ということではなく、そのとこですぐに相談に応じてくれる様なシステム作りを望みます。	(60歳代、女)
・昔とちがって家族や又一人でも苦しむことなく回りの人が手助けをしてくれるので幸せなことだと思います。特に、玉村町は福祉対策は進んでいる様に思います。	(60歳代、女)
・障害者（児）が縁者がなくても生きられる地域になって欲しい。町のインフラももっとバリアフリー化を進めて下さい。	(60歳代、男)
・福祉ボランティア要員を増強してコミュニケーションの機会を多くしたら？	(60歳代、男)

※アンケートの意見については、回答者の意向を損なわないよう、回答していただいた内容をそのまま掲載させていただきました。